Roland

R-26
PORTABLE RECORDER

取扱説明書

安全上のご注意

この機器を正しくお使いいただくために、ご使用前に「安全上のご注意」（P.2）と「使用上のご注意」（P.6）をよくお読みください。また、この機器の優れた機能を十分ご理解いただくためにも、取扱説明書をよくお読みください。取扱説明書は必要なときにすぐに見ることができるよう、手元に置いてください。

安全上のご注意

火災・感電・傷害を防止するには

⚠警告と⚠注意の意味について

⚠ 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を表わしています。
⚠ 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が傷害を負う危険が想定される場合および物的損害のみの発生が想定される内容を表わしています。 ※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を表わしています。

図記号の例

	△は、注意（危険、警告を含む）を表わしています。 具体的な注意内容は、△の中に描かれています。 左図の場合は、「一般的な注意、警告、危険」を表わしています。
	⃠は、禁止（してはいけないこと）を表わしています。 具体的な禁止内容は、⃠の中に描かれています。 左図の場合は、「分解禁止」を表わしています。
	●は、強制（必ずすること）を表わしています。 具体的な強制内容は、●の中に描かれています。 左図の場合は、「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表わしています。

以下の指示を必ず守ってください

⚠ 警告

この機器および AC アダプターを分解したり、改造したりしないでください。

修理／部品の交換などで、取扱説明書に書かれていないことは、絶対にしないでください。必ずお買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

完全に電源を切るときは、コンセントからプラグを抜く

電源スイッチを切っても、本機は主電源から完全に遮断されてはいません。完全に電源を切る必要があるときは、本機の電源スイッチを切ったあと、コンセントからプラグを抜いてください。そのため、電源コードのプラグを差し込むコンセントは、本機にできるだけ近い、すぐ手の届くところのものを使用してください。

⚠ 警告

次のような場所に設置しないでください。

- 温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）
- 水気の近く（風呂場、洗面台、濡れた床など）や湿度の高い場所
- 湯気や油煙が当たる場所
- 塩害の恐れがある場所
- 雨に濡れる場所
- ほこりや砂ぼこりの多い場所
- 振動や揺れの多い場所

この機器を、ぐらつく台の上や傾いた場所に設置しないでください。必ず安定した水平な場所に設置してください。

⚠ 警告

ACアダプターは、必ず付属のものを、AC100Vの電源で使用してください。

電源コードは、必ず付属のものを使用してください。また、付属の電源コードを他の製品に使用しないでください。

電源コードを無理に曲げたり、電源コードの上に重いものを載せたりしないでください。電源コードに傷がつき、ショートや断線の結果、火災や感電の恐れがあります。

この機器を単独で、あるいはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、直ちに使用をやめて専門の医師に相談してください。

この機器に、異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）や液体（水、ジュースなど）を絶対に入れないでください。また、この機器の上に液体の入った容器を置かないでください。ショートや誤動作など、故障となることがあります。

次のような場合は、直ちに電源を切ってACアダプターをコンセントから外し、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに修理を依頼してください。

- ACアダプター本体、電源コード、またはプラグが破損したとき
- 煙が出たり、異臭がしたとき
- 異物が内部に入ったり、液体がこぼれたりしたとき
- 機器が（雨などで）濡れたとき
- 機器に異常や故障が生じたとき

お子様のいるご家庭で使用する場合、お子様の取り扱いやいたずらに注意してください。必ず大人のかたが、監視／指導してあげてください。

⚠ 警告

この機器を落としたり、この機器に強い衝撃を与えないでください。

電源は、タコ足配線などの無理な配線をしないでください。特に、電源タップを使用している場合、電源タップの容量（ワット／アンペア）を超えると発熱し、コードの被覆が溶けることがあります。

外国で使用する場合は、お買い上げ店またはローランドお客様相談センターに相談してください。

電池は、充電、加熱、分解したり、または火や水の中に入れたりしないでください。

電池を、日光、炎、または同様の過度の熱にさらさないでください。

電池は、間違った使いかたをすると、液もれ、発熱、発火、破裂などの危険があります。ご使用の前に、電池、充電器に付属の注意事項を必ず最後まで読み、注意事項を守って正しくお使いください。
充電池／充電器は、必ず電池メーカーで指定された充電池と充電器の組み合わせでお使いください。

安全上のご注意

⚠ 注意

この機器と AC アダプターは、風通しのよい、正常な通気が保たれている場所に設置して、使用してください。

AC アダプターを機器本体やコンセントに抜き差しするときは、必ずプラグを持ってください。

定期的に AC アダプターを抜き、乾いた布でプラグ部分のゴミやほこりを拭き取ってください。また、長時間使用しないときは、AC アダプターをコンセントから外してください。AC アダプターとコンセントの間にゴミやほこりがたまると、絶縁不良を起こして火災の原因になります。

接続したコードやケーブル類は、繁雑にならないように配慮してください。特に、コードやケーブル類は、お子様の手が届かないように配慮してください。

この機器の上に乗ったり、機器の上に重いものを置かないでください。

濡れた手で AC アダプターのプラグを持って、機器本体やコンセントに抜き差ししないでください。

この機器を移動するときは、AC アダプターをコンセントから外し、外部機器との接続を外してください。

お手入れをするときには、電源を切って AC アダプターをコンセントから外してください（P.22）。

落雷の恐れがあるときは、早めに AC アダプターをコンセントから外してください。

⚠ 注意

電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりします。次のことに注意してください(P.21)。

- 電池の + と - を間違えないように、指示どおり入れてください。

- 新しい電池と一度使用した電池や、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。

- 長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。

- 液漏れを起こした場合は、柔らかい布で電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また、漏れた液が身体についた場合は、皮膚に炎症を起こす恐れがあります。また眼に入ると危険ですのですぐに水でよく洗い流してください。

- 電池を、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアピンなどと一緒に携帯したり、保管したりしないでください。

使用済みの電池は、各地域のゴミ分別収集のしかたに従って、捨ててください。

下記の部品はお子様が誤って飲み込んだりすることのないよう手の届かないところへ保管してください。

- 付属品
  SD カード（P.28）

接地端子ネジは、お子様が誤って飲み込んだりすることのないよう取り外した状態で放置しないでください。再度ネジを取付ける際は、緩んで外れないように確実に取り付けてください。

⚠ 注意

ファンタム電源供給の必要なコンデンサー・マイクを接続したとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。

（本機のファンタム電源：DC 48V、10mA Max）

使い方によっては電池が高温になることがありますので、やけどしないよう注意してください。

使用上のご注意

電源について

- 本機を冷蔵庫、洗濯機、電子レンジ、エアコンなどのインバーター制御の製品やモーターを使った電気製品が接続されているコンセントと同じコンセントに接続しないでください。電気製品の使用状況によっては、電源ノイズにより本機が誤動作したり、雑音が発生する恐れがあります。電源コンセントを分けることが難しい場合は、電源ノイズ・フィルターを取り付けてください。
- AC アダプターを長時間使用すると AC アダプター本体が多少発熱しますが、故障ではありません。
- 接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の電源を切ってください。
- この機器は演奏や操作をやめてから 30 分経過すると、自動的に電源が切れます（工場出荷時の設定）。自動で電源を切る必要がない場合は 94 ページに記載の手順で「オート・オフ」の設定をオフにしてください。

電池について

- 電池のセットや交換は、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、他の機器と接続する前にこの機器の電源を切った状態で行なってください。
- 電池で使用する場合はアルカリ乾電池、充電式ニッケル水素電池を使用してください。

設置について

- この機器の近くにパワー・アンプなどの大型トランスを持つ機器があると、ハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くでこの機器を動作させると、テレビ画面に色ムラが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、この機器を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 直射日光の当たる場所や、発熱する機器の近く、閉め切った車内などに放置しないでください。変形、変色することがあります。
- 極端に温湿度の違う場所に移動すると、内部に水滴がつく（結露）ことがあります。そのまま使用すると故障の原因になりますので、数時間放置し、結露がなくなってから使用してください。
- 設置条件（設置面の材質、温度など）によっては本機のゴム足が、設置した台などの表面を変色または変質させることがあります。ゴム足の下にフェルトなどの布を敷くと、安心してお使いいただけます。この場合、本機が滑って動いたりしないことを確認してからお使いください。
- 本機の上に水の入った容器、殺虫剤、香水、アルコール類、マニキュア、スプレー缶などを置かないでください。また、表面に付着した液体は、すみやかに乾いた柔らかい布で拭き取ってください。

お手入れについて

- 通常のお手入れは、柔らかい布で乾拭きするか、堅く絞った布で汚れを拭き取ってください。汚れが激しいときは、中性洗剤を含んだ布で汚れを拭き取ってから、柔らかい布で乾拭きしてください。
- 変色や変形の原因となるベンジン、シンナーおよびアルコール類は、使用しないでください。

修理について

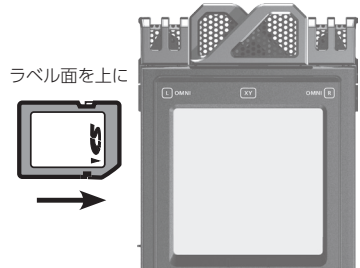
- お客様がこの機器や AC アダプターを分解、改造された場合、以後の性能について保証できなくなります。また、修理をお断りする場合もあります。
- 修理に出される場合、記憶した内容が失われることがあります。大切な記憶内容は、記憶内容をメモしておいてください。修理するときには記憶内容の保存に細心の注意を払っておりますが、メモリー部の故障などで記憶内容が復元できない場合もあります。失われた記録内容の修復に関しましては、補償も含めご容赦願います。

- 当社では、この製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打切後 6 年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。なお、保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、またはローランドお客様相談センターにご相談ください。

その他の注意について

- 記憶した内容は、機器の故障や誤った操作などにより、失われることがあります。失っても困らないように、大切な記憶内容はバックアップとしてメモしておいてください。
- SD カード、SDHC カードの失われた記憶内容の修復に関しましては、補償を含めご容赦願います。
- 故障の原因になりますので、ボタン、つまみ、入出力端子などに過度の力を加えないでください。
- ディスプレイを強く押したり、叩いたりしないでください。
- ケーブルの抜き差しは、ショートや断線を防ぐため、プラグを持ってください。
- 製品を使用する場合、隣近所に迷惑がかからないように、音量に十分注意してください。ヘッドホンを使用すれば、気がねなくお楽しみいただけます。
- 輸送や引っ越しをするときは、この機器が入っていたダンボール箱と緩衝材、または同等品で梱包してください。
- この機器が入っていた梱包箱や緩衝材を廃棄する場合、各地域のゴミの分別基準に従って行ってください。
- 接続ケーブルには抵抗が入ったものがあります。抵抗入りのケーブルを使用すると音が極端に小さくなったり、全く聞こえなくなる場合があります。抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。
  他社製の接続ケーブルをご使用になる場合、ケーブルの仕様につきましては、ケーブルのメーカーにお問い合わせください。

外部メモリーの取り扱い

- SD カード、SDHC カードは、確実に奥まで差し込んでください。

- SD カード、SDHC カードの端子の部分に触れたり、汚したりしないでください。
- SD カード、SDHC カードは精密な電子部品で作られていますので、取り扱いについては次の点に注意してください。
  - 静電気による破損を防ぐため、取り扱う前に身体に帯電している静電気を放電しておく。
  - 端子部に手や金属で触れない。
  - 曲げたり、落としたり、強い衝撃を与えたりしない。
  - 直射日光の当たる場所や、閉め切った自動車の中などに放置しない。
  - 水に濡らさない。
  - 分解や改造をしない。

CD ／ DVD の取り扱い

- ディスクの裏面（信号面）に触れたり、傷をつけたりしないでください。データの読み出しがうまくいかないことがあります。ディスクの汚れは、市販の専用クリーナーでクリーニングしてください。

著作権について

- 第三者の著作物（音楽作品、映像作品、放送、実演、その他）の一部または全部を、権利者に無断で録音、録画、複製あるいは改変し、配布、販売、貸与、上演、放送などを行うことは法律で禁じられています。
- 本製品は技術的保護手段による制約の一部または全部を受けずに録音、録画あるいは複製を行うことができます。これは本製品が音楽制作や映像制作を目的としており、他者の著作権を侵害しない作品（自作曲など）の録音、録画あるいは複製まで、制約を受けることがないよう設計されているためです。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツ（音色波形データ、スタイルデータ、伴奏パターン、フレーズデータ、オーディオループ、画像データなど）の著作権は当社および／またはアトリエビジョン株式会社が保有しています。
- 製品に内蔵、付属されたコンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、別の記録媒体に固定して配布したり、コンピュータネットワークを通じて公開したりすることはできません。
- 同梱の DVD-ROM を開封する前に、必ず「使用許諾契約書」をお読みください。DVD-ROM を開封した時点で、使用許諾契約書に記載された事項をご承諾いただいたことになります。

※ 文中記載の会社名及び製品名は、各社の登録商標または商標です。

※ Microsoft、Windows、Windows Vista、は、米国 Microsoft Corporation の登録商標または商標です。

※ Windows の正式名称は、Microsoft Windows operating system です。

※ Apple、Macintosh、Mac OS は、米国 Apple, Inc. の登録商標または商標です。

※ MMP（Moore Microprocessor Portfolio）はマイクロプロセッサーのアーキテクチャーに関する TPL（Technology Properties Limited）社の特許ポートフォリオです。
当社は、TPL 社よりライセンスを得ています。

※ MPEG Layer-3 オーディオ圧縮技術は、Fraunhofer IIS 社と THOMSON multimedia 社よりライセンスを得ています。

※ SD ロゴ（ ）および SDHC ロゴ（ ）は SD-3C, LLC の商標です。

※ ASIO は、Steinberg Media Technologies GmbH. の商標です。

※ 本製品には、イーソル株式会社のソフトウェアプラットフォーム「eCROS ™」が搭載されています。

※ MP3 codec is Copyright © 1995-2010, SPIRIT.

目次

安全上のご注意 2

使用上のご注意 6

こんなことができます 11

R-26 の概要. 13
- 各部の名称とはたらき. **13**
- 画面の構成 **16**
  - 基本画面 **16**
  - メニュー画面 **18**

準備する 20
- 電源を準備する. **20**
  - 電池をセットする. **20**
  - AC アダプターをつなぐ **22**
  - 外部電源を使用する **23**
  - 電源を入れる／切る **24**
- 日付と時刻を設定する. **25**
- SD カードを準備する **26**
  - SD カードをセットする **26**
  - SD カードを取り出す **26**
  - SD カードを初期化する **27**
- ヘッドホンやスピーカーを接続する. **29**

録音する 30
- 録音するまでの流れ **30**
- 録音の設定 **31**
  - 録音モードを選ぶ. **31**
  - 録音ソースを選ぶ. **31**
  - サンプリング周波数を設定する. **33**
  - 録音フォーマットを設定する **34**
  - プリレコーディングを設定する. **34**
  - プロジェクト名の付け方を設定する **35**
  - 自動録音開始機能を使う. . . . **35**
  - ファイル・タイプを設定する **36**
- 入力の設定 **36**
  - 内蔵マイクの設定をする. . . . **36**
  - ANALOG IN の設定をする **.38**
  - プラグイン・マイクの設定をする **41**
- 録音のレベルやマイクの指向性を設定する. **42**
  - 内蔵マイクのモードを選ぶ . . **42**
  - 入力センス／入力レベルを設定する **44**
  - センスを自動設定して最適な入力レベルを表示する. . . . **47**
- 録音する. **48**
  - 録音／再生の基本操作 **48**
- 録音中にマークをつける. **50**
  - 手動でマーキングする **50**
  - 自動マーキングする間隔やレベルを設定する. **50**
- 録音中にプロジェクトを分割する **.51**
  - 手動で分割する **51**
  - 自動分割するプロジェクトのサイズを設定する **51**
- R-26 活用例 **52**
  - アコースティック楽器を録音する **52**
  - バンド演奏を録音する **58**
  - 野外で録音する **59**
  - コンサートを録音する **60**

再生する 62
- 再生の基本操作. **62**
  - 再生モードを選ぶ. **62**
  - 繰り返し再生させる **63**
  - 再生モードと繰り返し再生の組み合わせ **63**
  - モニターを設定する **64**
  - プロジェクトにマークをつける **65**
  - プロジェクトの一部を繰り返し再生する **66**
  - 再生する速度を変える **67**
  - 再生可能なファイルの種類 . . **67**

目次

プロジェクトやフォルダーを操作する 68

ファインダーの基本操作 68
プロジェクトを開く 70
プロジェクトをコピーする 70
プロジェクトを移動する 71
プロジェクトやフォルダーを削除する 71
プロジェクト名やフォルダー名を変更する 72
プロジェクトを分割/結合/不要部分削除する. 73
プロジェクトを分割する 74
プロジェクトを結合する 75
プロジェクトの不要部分を削除する(トリム処理) 75
プロジェクト情報を見る 76
プロジェクトに音声メモを付ける/削除する 77
音声メモをつける 77
音声メモを削除する 79
MP3 ファイルを作成する 80
プロジェクトを修復する 80
フォルダーを作成する. 81
Root にフォルダーを作成する 81
フォルダー内にフォルダーを作成する 82

USB でパソコンにつなぐ 83

USB 接続時のモードを設定する . . 83
パソコンとファイルのやり取りをする(マス・ストレージ) 84
R-26 とパソコンを接続する . 84
プロジェクトのファイル構成 86
パソコンとの接続を解除する 87
R-26 をオーディオ・インターフェースとして使う 89
オーディオ・インターフェース・モードの基本画面. 89
オーディオ・インターフェースのブロック・ダイヤグラム 89
USB ドライバーをインストールする 90
サンプリング周波数を設定する 90
R-26 とパソコンを接続する . 91
入力デバイスを設定する. . . . 92
R-26 本体で同時に録音する . 93
ダイレクト・モニターを使う 93
パソコンで再生した曲をR-26 で鳴らす 94
ループ・バック機能を使う . . 94

R-26 本体の各種設定 95

R-26 を工場出荷時の状態に戻す(設定の初期化) 99

エラー・メッセージ一覧. 100

トラブルシューティング. 102

録音ができない. 102
再生に関するトラブル. 103
その他のトラブル 104

主な仕様 106

R-26 ブロック・ダイヤグラム. 108

索引. 109

こんなことができます

アコースティック楽器の演奏を録音する

外部マイクと内蔵マイクを組み合わせて 4 チャンネル同時録音することで、部屋の響きを録音したり、グランド・ピアノ全体の鳴りを録音することもできます。

『アコースティック楽器を録音する』（P.52）

バンド演奏を録音する

練習スタジオで、大音量バンドの音もクリアに録音できます。リハーサル演奏時に最適な入力レベルの目安を自動的に検出することができます。CD 製作に使える高音質の WAV ファイルと配信用に使える小容量の MP3 ファイルを同時に録音することもできます。

『バンド演奏を録音する』（P.58）

こんなことができます

野外で録音する

内蔵マイクの指向性を変えることで、遠くの音をピンポイントでねらい録りしたり、広範囲な音を録音したりできます。
さらに最大 6 チャンネルの同時録音ができるので、特性の違うマイクで別々のチャンネルに録音しておき、あとから最も良い状態の録音を選ぶこともできます。

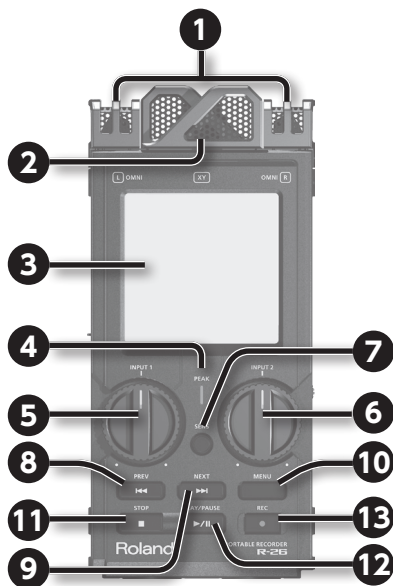
『野外で録音する』(P.59)

コンサートを録音する

外部マイクと内蔵マイクを組み合わせて 4 チャンネル同時録音することで、客席の歓声や会場の響きを同時に録音することもできます。
※ 録音が禁止されているコンサート会場では使用しないでください。

『コンサートを録音する』(P.60)

R-26 の概要

各部の名称とはたらき

❶ 無指向性（OMNI）内蔵マイク

R-26 本体内蔵の無指向性ステレオ・マイクです（P.42）。

❷ 指向性（XY）内蔵マイク

R-26 本体内蔵の指向性ステレオ・マイクです（P.42）。

❸ タッチ・パネル・ディスプレイ

R-26 のさまざまな情報を表示したり、設定、操作をするタッチ・パネルです（P.16）。

❹ PEAK インジケーター

入力の音量が大きすぎる場合に点灯します。

❺ [INPUT 1] つまみ

入力レベルを調節します。（P.45）。

❻ [INPUT 2] つまみ

入力レベルを調節します。（P.45）。

❼ [SENS] ボタン

入力センスや内蔵マイクのモードを設定します（P.44）。

❽ [PREV] ボタン

プロジェクトの頭出しや前のプロジェクトを選びます。押し続けると、その間プロジェクトを巻き戻します。再生中、停止状態のどちらの状態でも操作できます。

❾ [NEXT] ボタン

次のプロジェクトを選びます。押し続けると、その間プロジェクトを早送りします。再生中、停止状態のどちらの状態でも操作できます。

❿ [MENU] ボタン

録音や再生に関する設定や日時の設定など R-26 本体の各種設定をします（P.95）。

⓫ [STOP] ボタン

再生や録音を停止します。

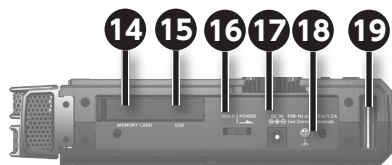
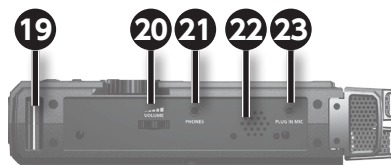
⓬ [PLAY/PAUSE] ボタン

再生を開始させたり、再生や録音を一時停止させたりします。

⓭ [REC] ボタン

録音待機状態にしたり、録音を開始します。録音待機状態ではボタンが点滅、録音中は点灯します。

左側面

右側面

⑭ SD カード・スロット

SDカードを差し込むスロットです(P.26)。

⑮ USB 端子

付属の USB ケーブルでパソコンと接続します。R-26 で録音したプロジェクトをパソコンに移動したり、またパソコンから R-26 に WAV や MP3 をコピーして、再生することができます(P.84)。また、R-26 を USB オーディオ・インターフェースとして使用することもできます(P.89)。

⑯ ［POWER HOLD］スイッチ

スイッチを POWER 側にスライドさせて電源のオン/オフを切り替えます(P.24)。電源をオンにした状態でスイッチを［HOLD］側に固定すると HOLD がオンになります。
HOLD をオンにしておくと、［INPUT 1］つまみと［INPUT 2］つまみを除くパネル上のボタンとタッチ・パネルの操作が効かない状態になり、誤操作の防止に役立ちます。

※ HOLD をオンにしていても［INPUT 1］、［INPUT 2］つまみは機能しますので、録音待機状態や録音中にこれらのつまみを操作すると、入力レベルが変わってしまいます。誤って操作しないように注意してください。

⑰ DC IN 端子

付属の AC アダプター、または市販の外部電源機器のケーブルを接続します。

参照

『AC アダプターをつなぐ』(P.22)。
『外部電源を使用する』(P.23)

⑱ 接地端子(アース端子)

設置条件によっては本体や接続されたマイクなどの金属部に触れると、違和感を覚えたりざらつくような感じになるときがあります。これは人体にまったく害のない極微量の帯電によるものですが、気になる方は、必要に応じ、接地端子を使って外部のアースか大地に接地してご使用ください。接地した場合、設置条件によってはわずかにハム(うなり)が混じる場合があります。なお接続方法がわからないときはお客様相談センターにご相談ください。

※ 接続してはいけないところ

- 水道管(感電の原因になります)
- ガス管(爆発や引火の原因になります)
- 電話線のアースや避雷針(落雷のとき危険です)

⑲ ストラップ取り付け軸

カバー・ウインドスクリーン・セット(OP-R26CW:別売)に付属のストラップを取り付けます。

⑳ ［VOLUME］ダイヤル

プレビュー・モニターや PHONES 端子から出力される音量を調節します。

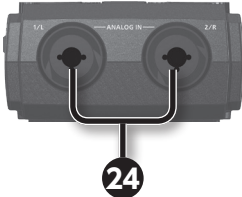
㉑ PHONES 端子

ヘッドホンを接続します(P.29)。

㉒ プレビュー・モニター

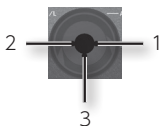
モニター用の内蔵スピーカーです。PHONES 端子にケーブルが接続されているときは音が出ません。

㉓ PLUG IN MIC 端子

ステレオ・ミニ・タイプの外部マイクを接続します（P.41）。

㉔ ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、

マイク・プリアンプ対応のアナログ・オーディオ信号入力端子です。XLR タイプと標準タイプのプラグに対応し、接続する機器に応じて選ぶことができます。また、バランス／アン・バランスのいずれも接続できます。さらに、ファンタム電源 48V に対応しており、ファンタム電源対応のコンデンサー・マイクを接続することができます。『ファンタム電源を供給する』(P.39) をご覧ください。

※ 本機はバランス（XLR ／ TRS）タイプの端子を装備しており、次のように配線されています。接続する機器の配線をご確認のうえ、接続してください。

XLR

1: GND　（アース）
2: HOT　（ホット）
3: COLD（コールド）

TRS

※ 抵抗入りの接続ケーブルを使用すると、インプット（ANALOG IN、PLUG IN）に接続した機器の音量が小さくなることがあります。このときは、抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。

㉕ 電池ケース

電池を入れます（P.20）。

㉖ 三脚取り付けネジ穴

市販のカメラ用三脚が取り付けできるネジ穴です。
（ネジ穴のサイズは 1/4 インチです。）

※ 三脚取り付けネジ穴を使用するときは、R-26 本体を安定して置くことができる三脚をお使いください。

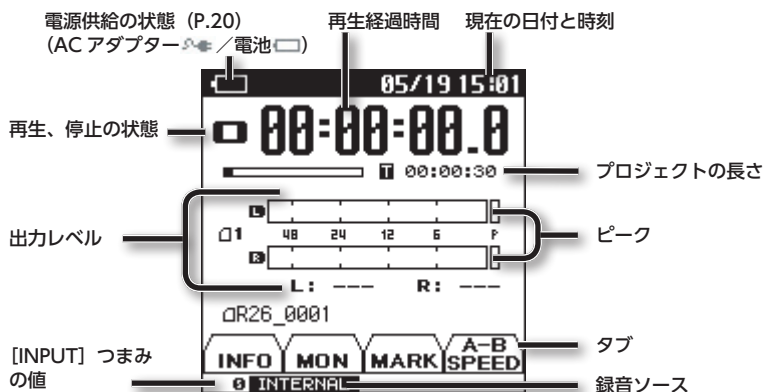
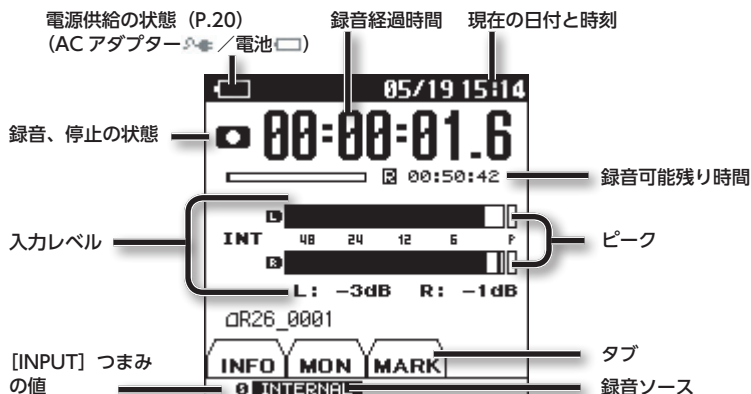
※ マイク・スタンドに取り付ける場合は、マイク・スタンド・アダプター（別売）が必要です。

画面の構成

基本画面

電源投入後に表示される画面を基本画面といいます。画面最下部に表示されているタブにタッチするとプロジェクトの情報を表示したり、モニター音声やマーカーなどの設定をすることができます。

※ R-26 では、録音、再生するデータの単位を「プロジェクト」と呼びます。プロジェクトのファイル構成については『プロジェクトのファイル構成』(P.86) をご覧ください。

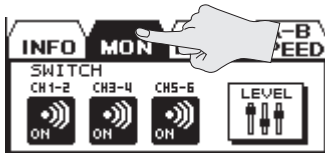
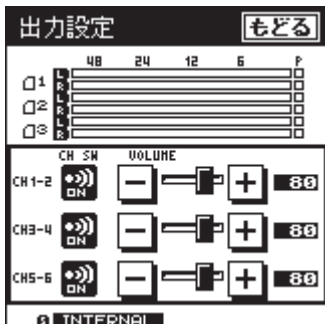
再生／停止

録音

基本画面のタブ

再生／停止、録音の各基本画面の画面最下部のタブにタッチすると、プロジェクトの情報を表示したり、モニターの設定、プロジェクト中にマーク、再生速度などの設定ができます。

INFO タブ

プロジェクト名、サンプリング周波数、ファイルのフォーマット、プロジェクト作成日時の情報を表示します。

MON タブ

再生／録音時のモニターの設定をします（P.64）。

＜LEVEL＞アイコンにタッチすると出力設定画面が表示されます。

MARK タブ

- 再生時
  プロジェクト中にマークをつけます（P.65）。＜SET＞にタッチすると現在の位置にマークがつきます。
  |◀で現在位置の直前のマークへ、
  ▶|で現在位置の直後のマークへ移動できます。

- 録音時
  プロジェクト中にマークをつけます（P.50）。＜SET＞にタッチすると現在の位置にマークがつきます。
  録音中に＜SPLIT＞にタッチするとその地点から新しいプロジェクトに分割されます。

A-B SPEED タブ（再生時のみ）

プロジェクトの中で指定した一定区間を繰り返し再生したり（P.66）、再生スピードを変更します（P.67）。

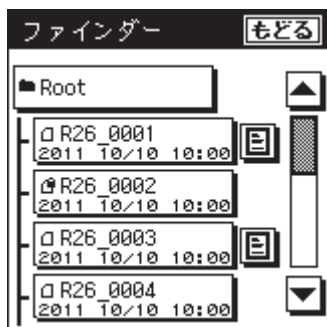
メニュー画面

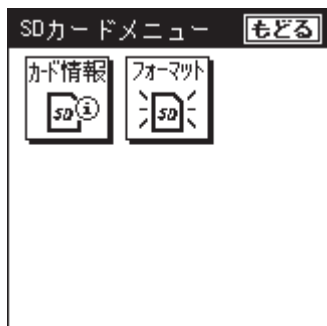
[MENU] ボタンを押して表示される画面です。

各アイコンにタッチするとそれぞれの設定画面に入ります。

※ 本書では、設定メニュー画面から<録音設定>を選んで録音モードを選ぶ操作を、「[MENU] →<録音設定>→<録音モード>」と表記します。

※ 本書では、画面を使用して機能説明をしていますが、工場出荷時の設定と本文中の画面上の設定は一致していないことがあります。あらかじめご了承ください。

ファインダー

入力設定

SD カード

録音設定

再生設定

各種設定

オーディオ I/F

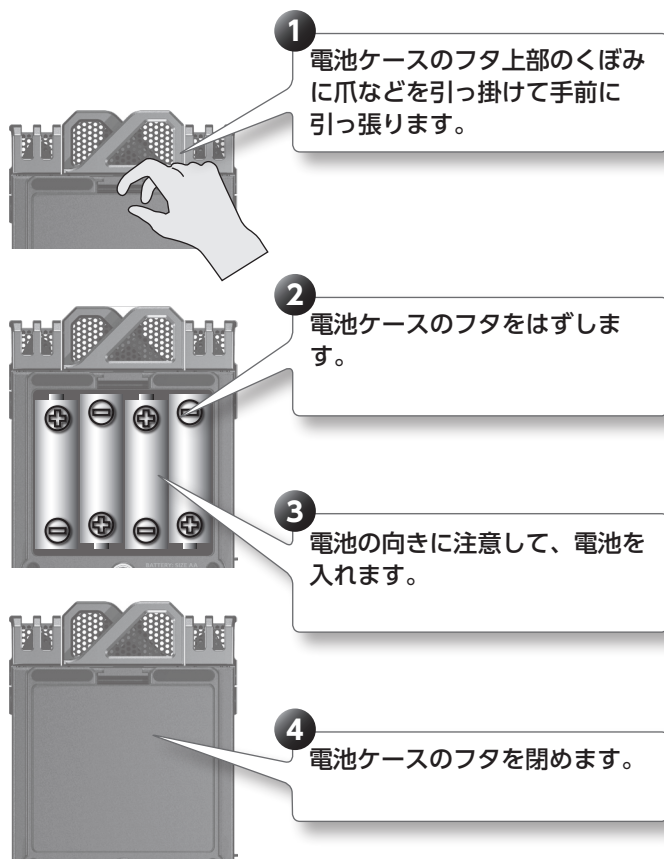
時計設定

初期化

準備する

電源を準備する

R-26 は、AC アダプター、電池、または外部電源で動作します。

電池をセットする

電池をセットしたら「各種設定」メニュー (P.97) でお使いになる電池の種類を設定してください。

※ 電池で使用する場合はアルカリ乾電池、充電式ニッケル水素電池を使用してください。

※ AC アダプターを使用する場合でも電池を入れておくと、万一製品本体から AC アダプターのコードが抜けても使用することができます。

※ 本体を裏返す際は、ボタン、つまみなどを破損しないように、注意してください。

R-26 を電池でお使いになるときの注意

電池の使いかたを間違えると、破裂したり、液漏れしたりします。次のことに注意してください。

- 電池の＋と - を間違えないように、指示どおり入れてください。
- 新しい電池と一度使用した電池や、違う種類の電池を混ぜて使用しないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を取り出しておいてください。
- 液漏れを起こした場合は、柔らかい布で電池ケースについた液をよくふきとってから新しい電池を入れてください。また、漏れた液が身体についた場合は、皮膚に炎症を起こす恐れがあります。また眼に入ると危険ですのですぐに水でよく洗い流してください。
- 電池を、金属性のボールペン、ネックレス、ヘアピンなどと一緒に携帯したり、保管したりしないでください。
- 電池は、間違った使いかたをすると、液もれ、発熱、発火、破裂などの危険があります。ご使用の前に、電池、充電器に付属の注意事項を必ず最後まで読み、注意事項を守って正しくお使いください。
- 充電池／充電器は、必ず電池メーカーで指定された充電池と充電器の組み合わせでお使いください。

使用できる電池の種類

- 単 3 アルカリ電池（LR6）
- 単 3 ニッケル水素電池（HR6）

『各種設定』(P.97) でお使いになる電池を設定してください。

※ R-26 本体でニッケル水素電池を充電することはできません。お使いのニッケル水素電池専用の充電器を用意してください。

省電力機能

- R-26 には無駄な電力消費を防ぐ「省電力機能」があります。何も操作しない状態が一定時間続くと、省電力機能の設定に応じてディスプレイが暗くなったり、電源が切れたりします。

参照

『各種設定』（P.97）

電池残量表示

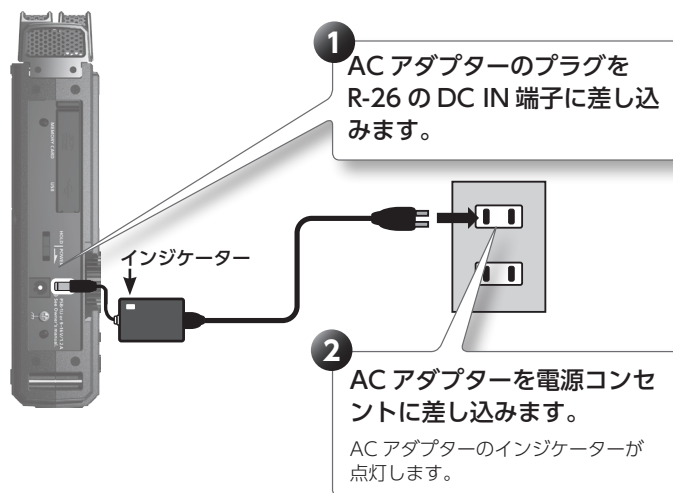
電池容量が少なくなると、ディスプレイの上段左側に電池残量不足のアイコン が表示されます。早めに新しい電池と交換してください。
電池容量が少ないまま使い続けると、「バッテリーが低下しています」と表示され、最終的に R-26 のすべての機能が停止します。

連続使用時の電池の寿命

※ 電池の仕様や使用状態によって異なります。

連続録音時	約 10 時間

(アルカリ電池、44.1kHz、2 チャンネル、ファンタム電源オフの状態)

AC アダプターをつなぐ

※ AC アダプターは、インジケーター（図参照）のある面が上になるように設置してください。AC アダプターをコンセントに接続すると、インジケーターが点灯します。

※ AC アダプターは必ず付属のものをお使いください。

※ AC アダプターをお使いの際は、「終止電圧（外部)」の設定を「アダプター」にしてください (P.23)。

外部電源を使用する

外部電源を使用する場合は、必ず終止電圧を設定してください。
終止電圧とは、外部電源の電力の消耗に従って電圧が下がっていき容量が減少して電圧を供給できなくなったときの電圧のことです。外部電源にあわせて終止電圧を適切に設定しないと容量に応じた残量表示ができなくなります。終止電圧の値については、お使いの外部電源の説明書を参照ください。
また、「バッテリーが低下しています」と表示された場合、録音は自動的に終了し、電源は自動的に切れます。すみやかに外部電源を交換してください。

※ 外部電源の消耗により電源が自動的に切れた場合でも、再度電源を入れると約 30 秒間 R-26 が起動します。この間に終止電圧の設定を変更することができます。

※ R-26 の終止電圧の設定方法については以下を参照ください。

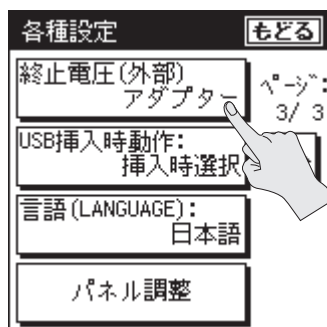
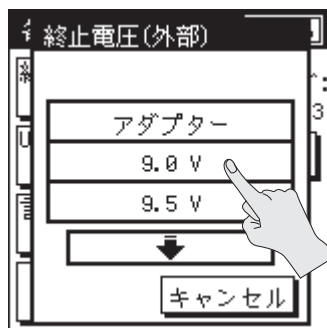
メモ

外部電源の対応情報については、ホームページでご確認ください。
http://www.roland.co.jp/support/
外部電源を使用する場合は、必ず外部電源の取扱説明書を参照ください。

終止電圧の設定方法

1. [MENU] →<各種設定>を選びます。

2. <終止電圧(外部)>にタッチします。

<終止電圧（外部）>はページ 3/3 にあります。▼を押して 3/3 を表示します。

3. 設定したい終止電圧の値にタッチします。

設定値
アダプター、9.0V、9.5V、10.0V、10.5V、11.0V、11.5V、12.0V

4. <もどる>にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

電源を入れる／切る

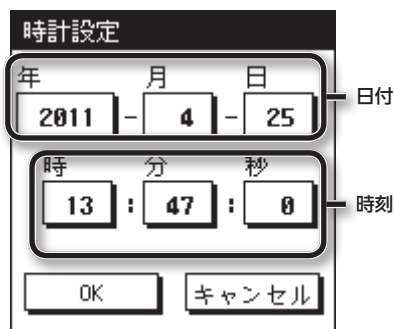
[POWER HOLD] スイッチを POWER 側に数秒間スライドさせて、電源のオン／オフを切り替えます。

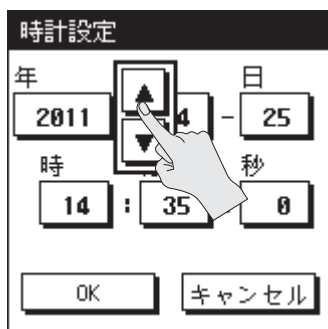
電源が入るとディスプレイに起動画面が表示された後、基本画面が表示されます。

この機器は演奏や操作をやめてから 30 分経過すると、自動的に電源が切れます（工場出荷時の設定）。自動で電源を切る必要がない場合は 94 ページに記載の手順で「オート・オフ」の設定をオフにしてください。

日付と時刻を設定する

1. [MENU] →<時計設定>を選びます。

時計設定画面が表示されます。

2. 日付と時刻を設定します。

各項目にタッチして▲、▼で日付と時刻を合わせます。

3. すべての項目の設定が終わったら< OK >にタッチします。

※ <キャンセル>にタッチすると設定をせずに前の画面に戻ります。

4. <もどる>にタッチして基本画面 (P.16) に戻ります。

SD カードを準備する

R-26 は SD カードに録音したデータを保存します。

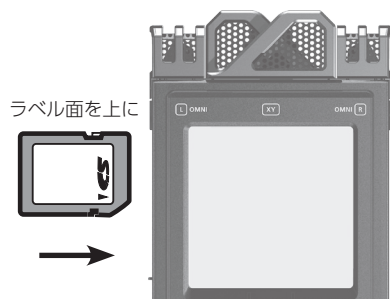
SD カードをセットする

1. 電源がオフになっていることを確認します。

2. 本体左側面にある SD カバーを開きます。

※ 無理に引っ張ると破損するおそれがありますのでご注意ください。

3. SD カードをセットします。

SD カードの表裏を R-26 本体の表裏と同じ向きに合わせてゆっくりと挿入してください。

ご注意！

- SD カードの向きが逆の状態で無理に挿入すると、R-26 本体や SD カードを破損するおそれがあります。ご注意ください。
- SD カードは、確実に奥まで挿し込んでください。

4. SD カバーを閉じます。

5. 電源を入れます（P.24）。

メモ

フォーマットされていない SD カードが R-26 にセットされていると、「フォーマットされていません」と表示されます。

SD カードを取り出す

1. R-26 本体の電源を切ります（P.24）。

2. SD カバーを開きます。

3. SD カードを軽く奥に押し、指を離します。

SD カードが手前に出てきたら取り出します。

ご注意！

本体の電源を入れたまま、SD カードの抜き差しをしないでください。SD カード内のデータが失われる可能性があります。

SD カードを初期化する

付属品以外の SD カードをお使いになる場合は、最初に SD カードの初期化（フォーマット）が必要です。

ご注意！

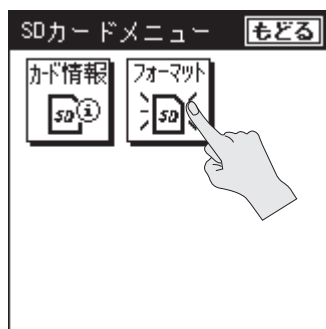
- 付属の SD カードにはデモ・ソングやドライバー・ソフトが収録されています。新たにフォーマットすると、収録されているデモ・ソングやドライバー・ソフトが消えてしまいます。必要に応じてパソコンにバックアップしておきましょう。詳しくは『パソコンとファイルのやり取りをする（マス・ストレージ）』（P.84）をご覧ください。
- SD カードをフォーマットすると、すべてのデータが消去されます。
  大切なデータが入っているときはパソコンにバックアップしておきましょう。
- SD カードのフォーマットは、必ず R-26 本体で行ってください。R-26 以外の機器でフォーマットした SD カードは R-26 では正しく動作しないことがあります。

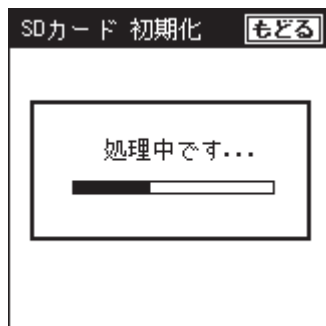
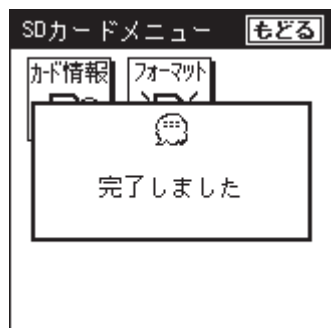
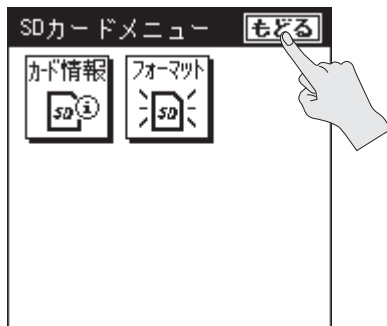
1. **SD カード・スロットに、フォーマットしたい SD カードが挿し込まれていることを確認します。**

参照

『SD カードをセットする』（P.26）

2. **［MENU］→＜ SD カード＞を選びます。**

3. **＜フォーマット＞にタッチします。**

4. **フォーマットするときは＜はい＞にタッチします。**

フォーマットが実行されます。

フォーマットが完了すると以下の画面が表示されます。

5. **<もどる>に 2 回タッチして基本画面（P.16）に戻ります。**

SD カードについて

- 本体の電源を入れたまま、SD カード、SDHC カードの抜き差しをしないでください。SD カード内のデータが失われる可能性があります。
- SD カードのメーカーや種類によっては、R-26 で正しく録音や再生ができないものがあります。
- SD カード、SDHC カードは挿入方向や表裏に注意し、確実に奥まで差し込んでください。また無理な挿入はしないでください。
- R-26 は SDHC カードに対応しています。

メモリー・カードの書き込み禁止（LOCK）機能について

メモリー・カードの側面にある書き込み禁止スイッチを「LOCK」方向にスライドさせると書き込みできなくなり、メモリー・カード内のデータを保護することができます。
録音やデータの削除などの操作をしたい場合は書き込み禁止を解除してお使いください。

書き込み禁止スイッチ

デモ・ソングについて

付属の SD カードにはデモ・ソングが収録されています。

- SD カードにデモ・ソングが入っている状態では、デモ・ソングの容量だけカードの録音時間が短くなります。

※ デモ・ソングを個人で楽しむ以外に権利者の許諾なく使用することは、法律で禁じられています。権利者に無断でこれらのデータの複製を作ったり、二次的著作物で利用したりしてはいけません。

ヘッドホンやスピーカーを接続する

ヘッドホンやスピーカーを接続して、再生音を聴くことができます。

メモ

- ヘッドホンやスピーカーをヘッドホン端子に接続すると、R-26 のプレビュー・モニターからは音が鳴りません。
- 電源を入れる／切るときは、音量を絞ってください。
  音量を絞っても電源を入れる／切るときに音がすることがありますが、故障ではありません。

スピーカーを接続する場合

※ 正しく接続したら、必ず次の手順で電源を投入してください。手順を間違えると、誤動作をしたりスピーカーなどが破損する恐れがあります。

1. 接続するスピーカーの音量を最小にして電源を切っておきます。

2. スピーカーを接続します。

アンプを内蔵しているスピーカーのみ接続できます。
R-26 のヘッドホン端子とスピーカーのライン入力端子をオーディオ・ケーブルで接続します。

3. R-26 の電源を入れます（P.24）。

4. R-26 の［VOLUME］をあげます。

5. スピーカーの電源を入れて、音量を少しずつ大きくして音量を調節します。

※ 他の機器と接続するときは、誤動作やスピーカーなどの破損を防ぐため、必ずすべての機器の音量を絞った状態で電源を切ってください。

※ この機器は回路保護のため、電源をオンしてからしばらくは動作しません。

※ マイクとスピーカーの位置によっては、ハウリング音（キーンという音）が出ることがあります。その場合は、以下のように対処してください。

1. マイクの向きを変える
2. マイクをスピーカーから遠ざける
3. 音量を下げる

録音する

録音するまでの流れ

R-26 で録音する手順の流れです。

録音モードを選ぶ

録音するチャンネル数を選びます（P.31）。

録音ソースを選ぶ

内蔵マイク、アナログイン、プラグインマイクのいずれか、または複数の組み合わせを選びます（P.31）。

サンプリング周波数を設定する

サンプリング周波数を選びます（P.33）。

プロジェクトのフォーマットを選ぶ

WAV、MP3 または両方同時録音を選びます（P.34）。

入力の設定をする

リミッター、ロー・カット、ファンタム電源設定などの入力設定を行います。

入力センス、入力レベルを調節する

録音する音の大きさを調整します（P.44）。[SENS] ボタンを押して入力センス設定画面でセンスを設定します。入力センスを設定したら［INPUT 1］つまみ、［INPUT 2］つまみで入力レベルを調節します。録音する音の大きさを調整します（P.45）。

録音を始める

『録音する』（P.48）

録音を停止する

『録音する』（P.48）

録音したプロジェクトを再生する

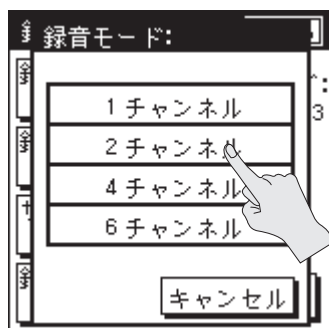
録音の設定

録音モードや録音ソース、サンプリング周波数や録音ののフォーマットを設定します。CD 制作や、映像用音声の制作、配信用音源の作成など目的にあった設定をしてください。

録音モードを選ぶ

R-26 は 1 チャンネルから、最大 6 チャンネルまで録音できます。録音モードでは録音するチャンネル数を選びます。

1. ［MENU］→<録音設定>→<録音モード>を選びます（P.18）。

2. 録音するチャンネル数にタッチします。

録音モード
1 チャンネル
2 チャンネル
4 チャンネル
6 チャンネル

※ MP3 フォーマットでの録音は 2 チャンネルのみで可能です（P.34）。

3. <もどる>にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

録音ソースを選ぶ

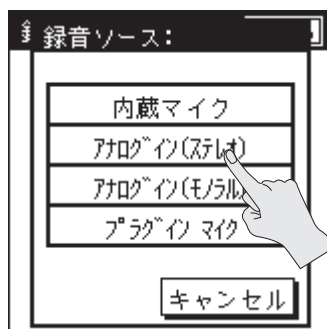
選択できる録音ソースの組み合わせは、選ばれている録音モード（チャンネル数）によって異なります。

1. ［MENU］→<録音設定>→<録音ソース>を選びます（P.18）。

2. <録音ソース>にタッチします。

3. 選びたい録音ソースの組み合わせにタッチします。

4. <もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

概要
準備
録音
再生
ファイル操作
パソコン
資料

各録音モードで選べる録音ソース

録音モード：1 チャンネル

モノラル ×1

設定値	説明
アナログイン（モノラル）	ANALOG IN 1/L 端子の入力を選びます。モノラル × 1 で録音されます。

録音モード：2 チャンネル

ステレオ ×1
アナログイン（モノラル）の場合はモノラル ×2

設定値	説明
内蔵マイク	内蔵マイク（指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクのミックス）を選びます。
アナログイン（ステレオ）	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子からの入力を選びます。ステレオで録音されます。
アナログイン（モノラル）	ANALOG IN 1/L 端子と ANALOG IN 2/R 端子からの入力を選びます。モノラル ×2 で録音されます。
プラグインマイク	PLUG IN MIC 端子の入力を選びます。

録音モード：4 チャンネル

ステレオ ×2

設定値	説明
XY マイク + OMNI マイク	指向性内蔵マイク（ステレオ）と無指向性内蔵マイク（ステレオ）選びます。
INT マイク + アナログイン	内蔵マイク（指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクのミックス）、ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子からの入力を選びます。
アナログイン + プラグインマイク	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、PLUG IN MIC 端子からの入力を選びます。
XY + プラグインマイク	指向性内蔵マイク、PLUG IN MIC 端子の入力を選びます。
XY マイク + OMNI マイク S	指向性内蔵マイク（ステレオ）と無指向性内蔵マイク（ステレオ）選びます。それぞれのマイクの入力レベルを個別に調整できます。
アナログイン S + INT マイク	ANALOG IN1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、内蔵マイク（指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクのミックス）からの入力を選びます。ANALOG IN1/L 端子と ANALOG IN2/R 端子の入力レベルを個別に調整できます。
アナログイン S + プラグインマイク	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、PLUG IN MIC 端子からの入力を選びます。ANALOG IN1/L 端子と ANALOG IN2/R 端子の入力レベルを個別に調整できます。

録音モード：6 チャンネル

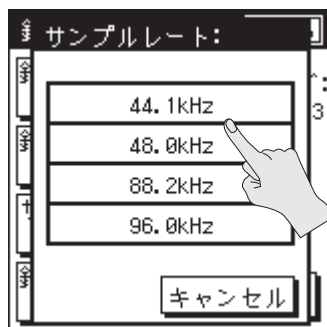
ステレオ ×3

設定値	説明
XY + OMNI + INT マイク	内蔵マイク（指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクのミックス）、指向性マイクのみ、無指向性マイクのみを選びます。
XY + OMNI マイク + アナログイン	指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイク、ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子からの入力を選びます。
XY + アナログイン + プラグインマイク	指向性内蔵マイク、ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、PLUG IN MIC 端子からの入力を選びます。
アナログイン S + XY + OMNI マイク	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクからの入力を選びます。 ANALOG IN1/L 端子と ANALOG IN2/R 端子の入力レベルを個別に調整できます。
アナログイン S + XY + プラグインマイク	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子、指向性内蔵マイク、PLUG IN MIC 端子からの入力を選びます。 ANALOG IN1/L 端子と ANALOG IN2/R 端子の入力レベルを個別に調整できます。

サンプリング周波数を設定する

録音データの用途に応じてサンプリング周波数を選びます。

1. **［MENU］→<録音設定>→<サンプルレート>を選びます。**

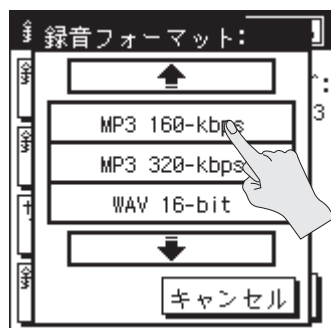
2. **選びたいサンプリング周波数にタッチします。**

サンプルレート
44.1 kHz
48.0 kHz
88.2 kHz
96.0 kHz

3. **<もどる>にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。**

録音フォーマットを設定する

録音データの用途に応じてファイルの形式を選びます。

1. **［MENU］→＜録音設定＞→＜録音フォーマット＞を選びます。**

2. **選びたいファイル形式にタッチします。**

録音フォーマット
WAV+MP3 (WAV 16-bit+MP3 128-kbps)
MP3 128-kbps
MP3 160-kbps
MP3 320-kbps
WAV 16-bit
WAV 24-bit

※ MP3 は録音モードが 2 チャンネル、サンプリング周波数が 44.1kHz または 48.0kHz のときのみに選べます。

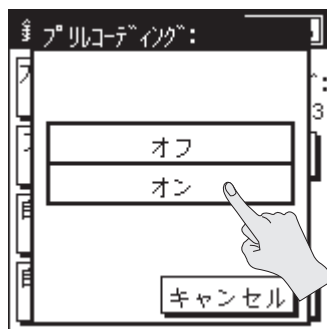
3. **＜もどる＞にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。**

プリレコーディングを設定する

R-26 には録音待機状態から録音ボタンを押す 2 秒前にさかのぼって録音を開始することができるプリレコーディング機能があります。野外での録音など、録りたい音がいつ鳴り始めるかわからないような場面でも、鳴り始めを逃すことなく録音できます。

1. **［MENU］→＜録音設定＞→＜プリレコーディング＞を選びます。**

「プリレコーディング」はページ 2/3 にあります。 にタッチして 2/3 を表示させます。

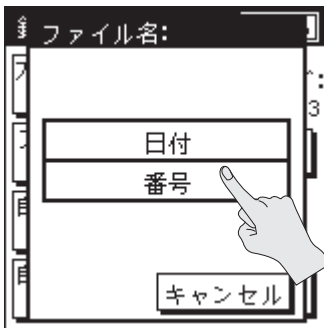
2. **＜オン＞にタッチします。**

3. **＜もどる＞にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。**

プロジェクト名の付け方を設定する

プロジェクト名を連番でつけるか、日付でつけるかを選びます。

1. **[MENU] →<録音設定>→<ファイル名>を選びます。**

「ファイル名」はページ 2/3 にあります。▼にタッチして 2/3 を表示させます。

2. **選びたい形式にタッチします。**

設定値	説明
日付	日付と時刻でファイル名をつけます。
番号	連番でファイル名をつけます。

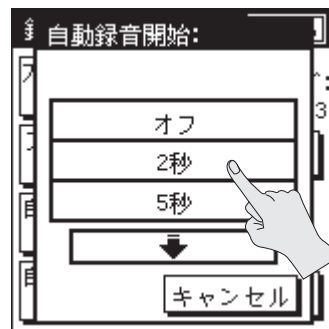
3. **<もどる>にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。**

自動録音開始機能を使う

自動録音開始機能を使って、設定した時間が経過したとき、または入力レベルが特定の値以上となったときに、自動的に録音を開始させることができます。

1. **[MENU] →<録音設定>→<自動録音開始>を選びます。**

自動録音開始はページ 2/3 にあります。▼にタッチして 2/3 を表示させます。

2. **選びたい録音開始までの時間、または自動的に録音を開始する入力レベルにタッチします。**

設定値	説明
オフ	自動録音しない
2 秒	録音開始までの時間
5 秒	
10 秒	
レベル 1（-60dB）	録音を開始するレベル
レベル 2（-30dB）	
レベル 3（-20dB）	

3. **<もどる>にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。**

ファイル・タイプを設定する

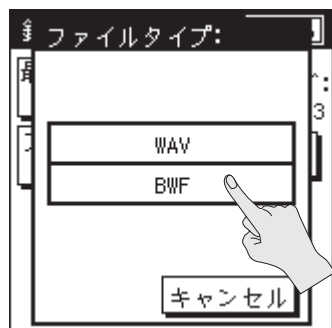
録音フォーマットが WAV 16-BIT または WAV 24-BIT に設定されているとき、WAV ファイルに録音時刻や録音機器（Roland R-26）の情報を含む BWF フォーマットにするかどうかを選びます。BWF フォーマットのファイルは BWF に対応した波形編集ソフトで利用できます。

※ BWF は録音フォーマットが WAV 16-BIT または WAV 24-BIT に設定されているときのみ有効です。パソコン上では通常の WAV ファイル同様、「.WAV」の拡張子がつきます。

1. ［MENU］→＜録音設定＞→＜ファイルタイプ＞を選びます。

ファイルタイプはページ 3/3 にあります。▼にタッチして 3/3 を表示させます。

2. 選びたい形式にタッチします。

設定値
WAV
BWF

3. ＜もどる＞にタッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

入力の設定

各録音ソースのタイプや電源供給の設定をします。

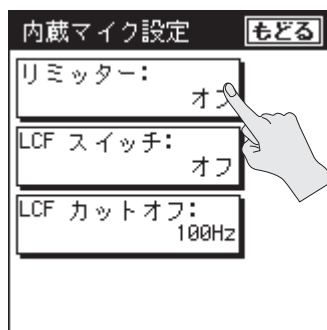
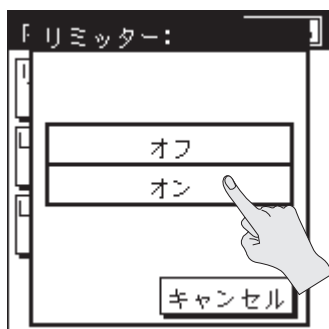
内蔵マイクの設定をする

内蔵マイクのリミッター、ローカット・フィルターの設定をします。

リミッターを使う

リミッターは入力された音が大きすぎたときに、入力レベルを適度なレベルまで圧縮して歪みを抑える機能です。

1. ［MENU］→＜入力設定＞→＜内蔵マイク＞を選びます。

2. ＜リミッター＞にタッチします。

3. ＜オン＞にタッチします。

設定	オフ
	オン

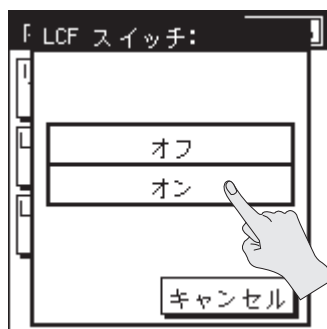
4. ＜もどる＞に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

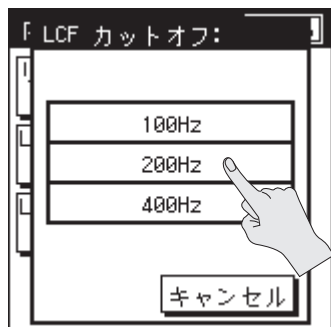
低音域をカットする

野外録音時の強い風による“吹かれノイズ”や車の騒音、機械の運転音、振動など低域成分を分多く含むノイズが気になる場合は、ローカット・フィルター（LCF）で低音域をカットするとノイズが軽減されます。
また、ボーカル録音時の“吹かれノイズ”や、こもった音質が気になる場合も低音域をカットすることにより、すっきりとした音で録音できます。

1. ［MENU］→＜入力設定＞→＜内蔵マイク＞を選びます。

2. ＜ LCF スイッチ＞にタッチします。

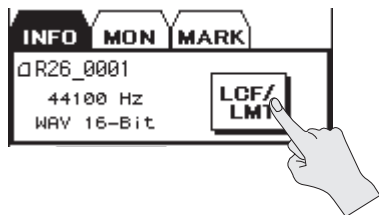
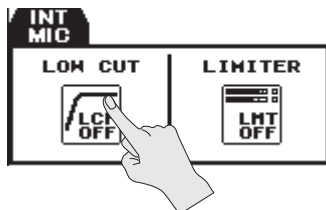
3. ＜オン＞にタッチします。

4. ＜ LCF カットオフ＞にタッチします。

5. カットする周波数の上限を選びます。

設定値
100Hz
200Hz
400Hz

6. <もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

ヒント

リミッター、ローカット・フィルターは録音待機状態、または録音中にもオン／オフできます。

1. 録音状態または録音待機状態で INFO タブの< LCF/LMT >を押します。

2. < LOW CUT >または< LIMITER >のアイコンにタッチしてオン／オフを切り替えます。

ANALOG IN の設定をする

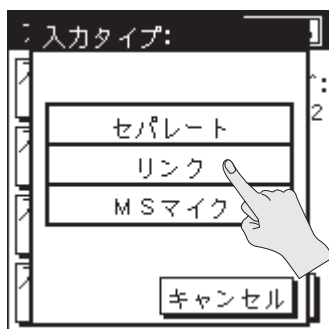
ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子の入力タイプ、ファンタム電源の供給、MS マイクの設定をします。リミッター、ローカット・フィルターは内蔵マイクと同様に設定します（P.36）。

入力タイプを設定する

2 つの入力をモノラル ×2、ステレオ ×1 として使うことができます。さらに、MS 方式のステレオ・マイクも使えます。

1. [MENU] →<入力設定>→<アナログイン>を選びます。

2. <入力タイプ>にタッチします。

3. **タイプを選びます。**

設定値	説明
セパレート	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子が別々に設定できます。
リンク	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子の設定はステレオ・リンクします。
MS マイク	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子が MS 方式のステレオ入力になります。

※ MS 選択時に使用できる MS マイクはミッド・シグナルとサイド・シグナルをダイレクトに出力するマイクです。ミッド・シグナルを ANALOG IN 1/L 端子に、サイド・シグナルを ANALOG IN 2/R 端子に接続してください。

※ セパレート選択時は、ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子それぞれにファンタム電源、リミッター、ローカット・フィルターの設定ができます。

4. **<もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。**

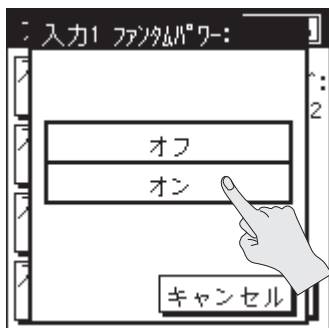
ファンタム電源を供給する

ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子に接続するマイクにファンタム電源を供給することができます。

1. **［MENU］→<入力設定>→<アナログイン>を選びます。**

2. **<入力 1 ファンタムパワー>または<入力 2 ファンタムパワー>にタッチします。**

※ 入力タイプをリンクまたは MS マイクに設定している場合は、「入力 1 ファンタムパワー」を設定するだけで、電源が供給されます。

3. <オン>にタッチします。

※ XLR タイプ端子にファンタム電源の供給が必要なコンデンサー・マイクを接続しているとき以外は、ファンタム電源を必ずオフにしてください。ダイナミック・マイクやオーディオ再生装置などにファンタム電源を供給すると故障の原因になります。マイクの仕様については、お使いのマイクの取扱説明書をお読みください。
本機のファンタム電源：DC48V、最大 10mA

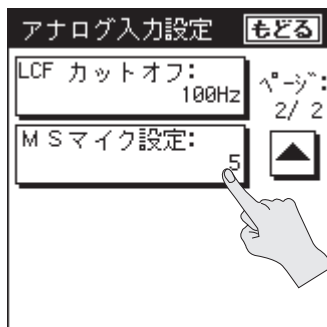
4. <もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

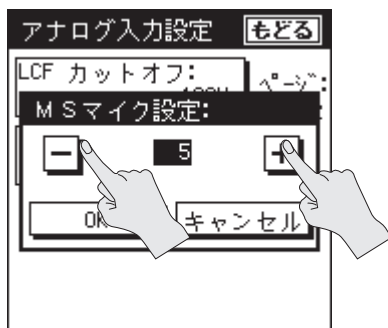
MS マイクを設定する

MS マイクの音の広がりを調節します。

1. ［MENU］→<入力設定>→<アナログイン>を選びます。

2. < MS マイク設定>にタッチします。

< MS-MIC 設定>はページ 2/2 にあります。▼にタッチして 2/2 を表示させます。

※ < MS マイク設定>は入力タイプが MS マイクに設定されているときのみに表示されます。

3. −、+で音の広がりの値を調節します。値が決まったら< OK >にタッチします。

設定	0 〜 5 〜 10

4. <もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

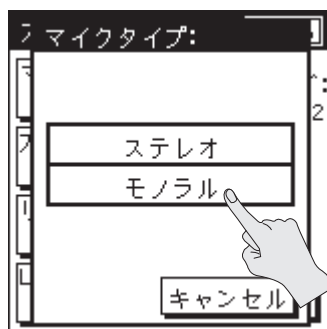
プラグイン・マイクの設定をする

ステレオ・ミニ・タイプの外部マイクの入力タイプ、プラグインパワーの設定をします。リミッター、ローカット・フィルターは内蔵マイクと同様に設定します(P.36)。

入力タイプを設定する

1. ［MENU］→<入力設定>→<プラグイン>を選びます。

2. <マイクタイプ>にタッチします。

3. タイプを選びます。

設定	ステレオ
	モノラル

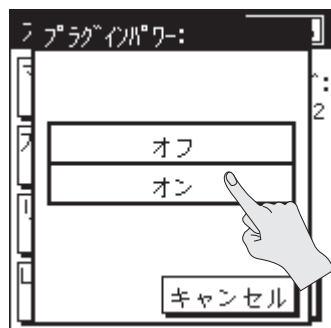
4. <もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

マイクに電源を供給する

プラグイン・マイクに電源を供給することができます。

1. ［MENU］→<入力設定>→<プラグイン>を選びます。

2. <プラグインパワー>にタッチします。

3. <オン>にタッチします。

設定	オフ
	オン

4. <もどる>に 2 回タッチしてメニュー画面（P.18）に戻ります。

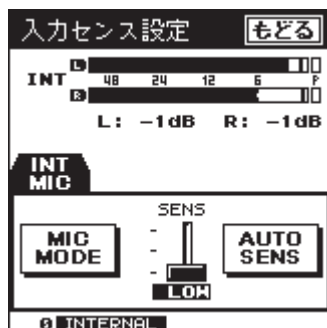
録音のレベルやマイクの指向性を設定する

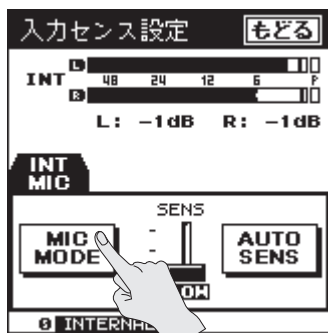
録音対象に応じて入力レベルや入力装置の設定をします。最適なレベルを設定することで、より高品質に録音できます。

内蔵マイクのモードを選ぶ

録音ソース（P.31）に「内蔵マイク」、「INT マイク」または「INT」（指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクのミックス）が選ばれているとき、指向性マイク（XY）と無指向性マイク（OMNI）のミックス・バランスを変えることにより、マイクの特性を変えることができます。R-26 では用途に合わせてあらかじめ調整された 3 種類のモードが選べます。さらに指向性マイクのみのモード、無指向性マイクのみのモード、手動でバランスを調整できるマニュアルモードの計 6 種類のモードから録音の用途に合ったモードが選べます。

1. 基本画面からパネル上の［SENS］ボタンを押します。

入力センス設定画面が表示されます。

2. ディスプレイ上の< MIC MODE >にタッチします。

3. モードを選びます。

設定値	説明
ソロ	単体の楽器やボーカルなどを録音するのに適しています。
コンサート	コンサートの録音に適しています。
フィールド	野外での録音に適しています。
オムニマイク	無指向性内蔵マイクのみの録音です。
XY マイク	指向性内蔵マイクのみでの録音です。
マニュアル	手動で指向性マイク、無指向性マイクのミックス・バランスを調整します。

4. < OK >にタッチします。

5. <もどる> にタッチして基本画面（P.16）にもどります。

マニュアルモードでのミックスバランスの調整

手動で指向性マイク、無指向性マイクのバランスを調整します。5 段階の調節ができます。

1. （P.43）手順 3 でマニュアルを選びます。

2. < SETUP >にタッチします。

3. ◀、▶でバランスを調整します。

4. < OK >にタッチして確定します。

5. < OK >にタッチしてマイクモード設定を終了します。

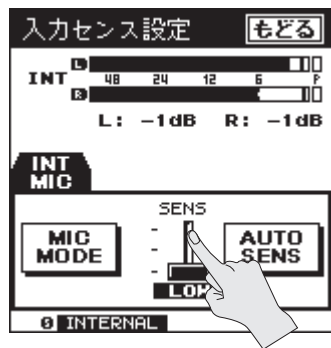
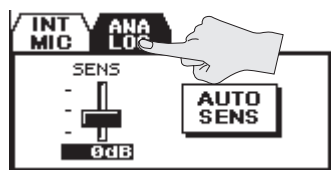
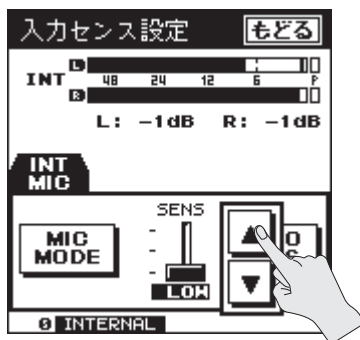
6. <もどる>にタッチして基本画面（P.16）に戻ります。

入力センス／入力レベルを設定する

録音ソースの感度（センス）と入力レベルを調節します。

入力センスを設定する

1. 基本画面からパネル上の［SENS］ボタンを押します。

2. ディスプレイ上の< SENS >スライダーにタッチします。

4 チャンネル、6 チャンネルで複数の録音ソースを調節するときは、調整したい録音ソースのタブにタッチしてから< SENS >スライダーにタッチします。

3. ▲、▼にタッチしてセンスを設定します。

録音ソース	設定値
内蔵マイク /XY マイク / Omni マイク / プラグインマイク	HIGH
	MID
	LOW
アナログイン	-62dBu
	-56dBu
	-50dBu
	-44dBu
	-38dBu
	-32dBu
	-26dBu
	-20dBu
	-14dBu
	-8dBu
	-2dBu
	+4dBu

4. <もどる>にタッチして基本画面（P.16）に戻ります。

入力レベルを設定する

1. 基本画面からパネル上の［SENS］ボタンを押します。

入力センス設定画面が表示されます。

2. 録音したい対象の音を鳴らします。

R-26 に入力される音の大きさに応じてレベル・メーターが振れます。

3. ［INPUT 1］つまみ、［INPUT 2］つまみ、タッチ・パネルで入力レベルを調節します。

PEAK インジケータやレベルメータの PEAK が点灯しない範囲で、できるだけ大きなレベルに調節します。
選択した録音モード､録音ソースの組み合わせによって各つまみ､タッチ･パネルで調節(P.47)できる録音ソースが変わります。

録音モード	録音ソース	［INPUT 1］つまみ	［INPUT 2］つまみ	タッチ・パネル
1 チャンネル	アナログイン（モノラル）	ANALOG IN 1/L	–	–
2 チャンネル	内蔵マイク	内蔵マイク	–	–
	アナログイン（ステレオ）	ANALOG IN 1/L、2/R	–	–
	アナログイン（モノラル）	ANALOG IN 1/L	ANALOG IN 2/R	–
	プラグインマイク	プラグインマイク	–	–
4 チャンネル	XY マイク + OMNI マイク	内蔵マイク（XY と OMNI 共用）	–	–
	INT マイク + アナログイン	内蔵マイク	ANALOG IN 1/L、2/R	–
	アナログイン + プラグインマイク	ANALOG IN 1/L、2/R	プラグインマイク	–
	XY + プラグインマイク	内蔵マイク (XY)	プラグインマイク	–
	XY マイク + OMNI マイク S	内蔵マイク (XY)	内蔵マイク (OMNI)	–
	アナログイン S + INT マイク	ANALOG IN 1/L	ANALOG IN 2/R	内蔵マイク（XY と OMNI 共用）
	アナログイン S + プラグインマイク	ANALOG IN 1/L	ANALOG IN 2/R	プラグインマイク

録音モード	録音ソース	[INPUT 1] つまみ	[INPUT 2] つまみ	タッチ・パネル
	XY + OMNI + INT マイク	内蔵マイク（XY と OMNI 共用）	–	–
	XY + OMNI マイク + アナログイン	内蔵マイク（XY と OMNI 共用）	ANALOG IN 1/L、2/R	–
6 チャンネル	XY + アナログイン + プラグインマイク	内蔵マイク (XY)	ANALOG IN 1/L、2/R	プラグインマイク
	アナログイン S + XY + OMNI マイク	ANALOG IN 1/L	ANALOG IN 2/R	内蔵マイク（XY と OMNI 共用）
	アナログイン S + XY + プラグインマイク	ANALOG IN 1/L	ANALOG IN 2/R	内蔵マイク（XY） プラグインマイク

入力センスと入力レベルの関係

入力センスは、録音ソースに入ってきた入力信号の大きさを適切な音量に調整します（感度調整）。入力レベルは入力センスで調整された信号をさらに録音に最適なレベルに微調整します。

※ 次の場合は入力センスの設定を変更してください。

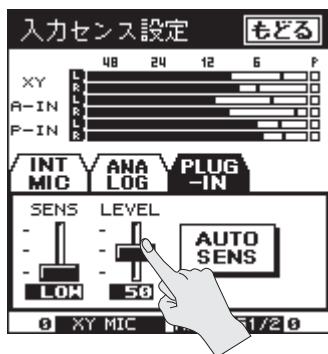
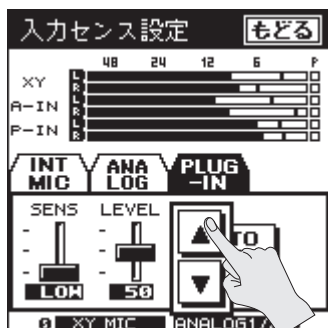
- つまみの位置を最大にしても、レベル・メーターが十分に振れない。
- つまみの位置を最小にしても PEAK インジケーターが点灯してしまう。

タッチ・パネルでの入力レベル設定方法

録音モードが 4 チャンネル、6 チャンネルの一部の入力レベルはタッチ・パネルで調節します。

1. 基本画面からパネル上の［SENS］ボタンを押します。

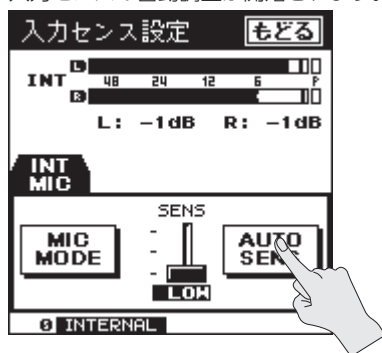
2. タッチ・パネルで入力レベルを調節するタブにタッチします。

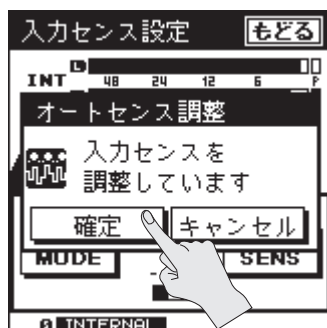
3. ディスプレイ上の< LEVEL >スライダーにタッチします。

4. ▲、▼にタッチして入力レベルを設定します。

センスを自動設定して最適な入力レベルを表示する

R-26 は入力センスを自動で設定することもできます。現在入力されている音に対して最適なセンスを自動設定し、最適な入力レベルの目安を表示します。

1. 基本画面からパネル上の［SENS］ボタンを押します。

2. 録りたい音源にマイクを向け、ディスプレイ上の< AUTO SENS >にタッチします。

入力センスの自動調整が開始されます。

3. ＜確定＞ボタンにタッチします。

キャンセルするときは＜キャンセル＞にタッチします。

4. 画面中央に表示された最適値と同じになるように［INPUT 1］つまみ、［INPUT 2］つまみで入力レベルを調節します。

画面左下に表示されている現在の入力レベルが画面中央の値と同じになるように調節します。

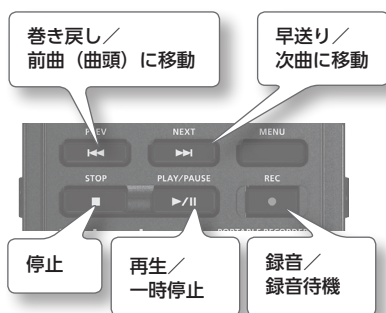
※ 録音モードが 6 チャンネルのときは、プラグインマイクのレベルは自動的に調整されます（P.47）。

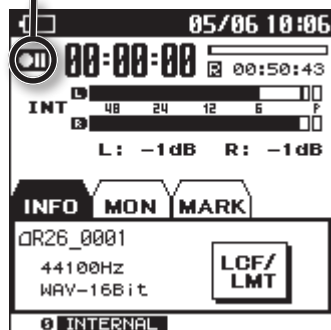
5. < OK >にタッチして入力センス設定画面にもどります（P.42）。

6. <もどる>にタッチして基本画面（P.16）にもどります。

録音する

録音の設定、入力の設定が終わったら録音の操作に入ります。

録音／再生の基本操作

1. ［REC］ボタンを押します。

録音待機状態になり、画面左上に が点滅します。

2. もう一度［REC］ボタンを押します。

の点滅から の点灯にかわります。

メモ

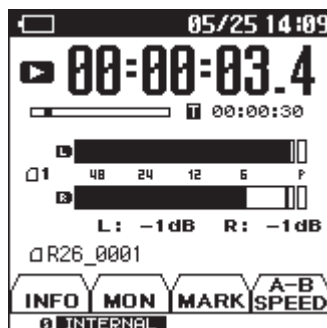
録音を始めてから［HOLD］スイッチをオンにしておくと、ボタンが誤って押されても録音が止まることはありません。

※［HOLD］スイッチをオンにしていても、入力設定つまみは機能します。録音待機状態や録音中に入力レベル設定つまみを操作すると、入力レベルが変わってしまいます。入力レベル設定つまみを誤って操作しないよう気をつけてください。

※ 録音中は電源をオフにすることができません。一度録音を停止してから電源をオフにしてください。

3. ［STOP］ボタンを押して録音を終了します。

REC インジケーターが消灯します。

ディスプレイには、録音したプロジェクトが表示されます。［PLAY］ボタンを押すと録音した音が再生されます。

メモ

- 録音したプロジェクトを削除する方法は『プロジェクトやフォルダーを削除する』（P.71）をご覧ください。
- 一時停止する場合は、［▶/II］を押します。一時停止を解除して録音を再開するときは、再度［▶/II］を押してください。
- 録音設定でプロジェクト名が「番号」に設定されているとき、プロジェクト名は、R26_0001 のように自動的に作成されます。0001 の部分は存在するプロジェクト名の中で、最も大きい番号の次の番号がつけられます。
- 録音設定でプロジェクト名が「日付」に設定されているときは、録音した日時がプロジェクト名になります。『R-26 本体の各種設定』（P.95）。

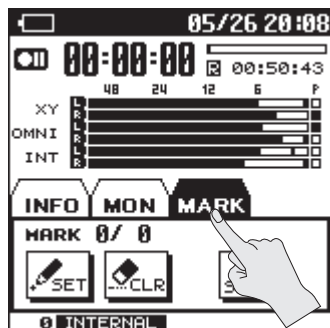
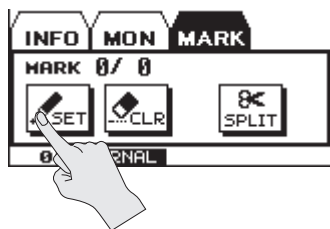
録音中にマークをつける

録音中にプロジェクトにマークをつけることができます。
マークをつけておくと、再生時に MARK タブの⏮、⏭を押してマークした位置にジャンプすることができます。『プロジェクトにマークをつける』(P.65)

※ MP3 のプロジェクトには、マークをつけることができません。

手動でマーキングする

1. 録音を始めます。

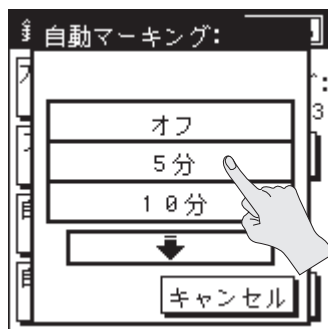
2. MARK タブ (P.17) にタッチします。

3. マークをつけたいタイミングで< SET >にタッチします。

< CLEAR >にタッチすると最後につけたマークが削除されます。

自動マーキングする間隔やレベルを設定する

録音中のプロジェクトに設定した時間間隔ごと、または入力レベルが設定した値以下になった地点に、自動的にマークをつけることできます。

1. [MENU] →＜録音設定＞→＜自動マーキング＞を選びます。

「自動マーキング」はページ 2/3 にあります。▼にタッチして 2/3 を表示させます。

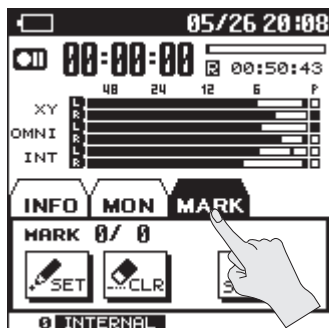
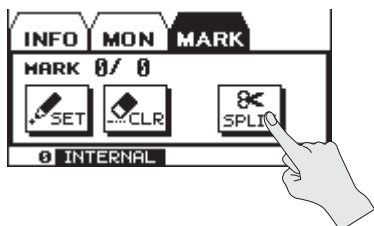
2. 選びたい時間間隔、またはレベルにタッチします。

設定	説明
オフ	自動マーキングする時間間隔
5 分	
10 分	
30 分	
レベル 1 (-60dB)	自動マーキングする入力レベル
レベル 2 (-30dB)	
レベル 3 (-20dB)	

録音中にプロジェクトを分割する

録音中に、プロジェクトを分割することができます。
プロジェクトを分割すると、分割した箇所から再生することができます。
長時間にわたって連続録音をするときに、あとで検索する必要がありそうな箇所で分割しておくと便利です。

手動で分割する

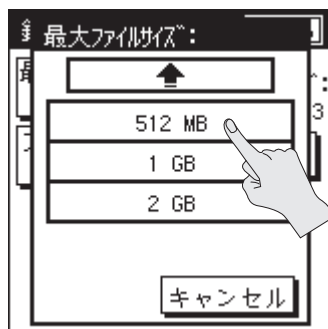
1. **録音を始めます。**

2. MARK タブ (P.17) にタッチします。

3. **分割したいタイミングで < SPLIT > にタッチします。**

自動分割するプロジェクトのサイズを設定する

R-26 は、録音中のプロジェクトが設定したサイズに達したとき、自動的にプロジェクトを分割します。
初期設定ではファイル・サイズが 2GB に達するとプロジェクトを自動分割するように設定されています。

1. **［MENU］→＜録音設定＞→＜最大ファイルサイズ＞を選びます。**

ファイルサイズはページ 3/3 にあります。▼を押して 3/3 を表示します。

2. **自動分割するファイル・サイズを選びます。**

設定	説明
64 MB	プロジェクトを自動分割するサイズ
128 MB	
256 MB	
512 MB	
1 GB	
2 GB	

※ R-26 で扱えるファイルの最大サイズは 2GB です。

R-26 活用例

ここでは、R-26 のさまざまな場面での活用例や、録音に適した録音設定の例をご紹介します。

アコースティック楽器を録音する

ボーカル／アコースティック・ギター／吹奏楽器を録る

内蔵マイクを使う

内蔵マイクを使用するときは、録音が左右どちらか一方のチャンネルに片寄らないように、録りたい楽器にまっすぐマイクを向けます。楽器に接近すると明るい音でくっきり録音できます（オン・マイク）。遠ざけると部屋の響きも録音されて、柔らかい音になります（オフ・マイク）。別売のマイク・スタンド・アダプターを使って、R-26 を市販のマイク・スタンドに取り付けることができます。

R-26

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	2 チャンネル
	録音ソース	内蔵マイク
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	ソロ

外部マイクを使う

ANALOG IN 1/L 端子、または ANALOG IN 2/R 端子に市販のダイナミック・マイクやコンデンサー・マイクを接続することもできます。楽器単体を録音するときは 1 本のマイクでモノラル録音します。

※ 録音モードが 1 チャンネルのときは ANALOG IN 1/L 端子のみ使用できます。

外部マイク

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	1 チャンネル

メニュー名	入力設定メニュー	項目	設定値
入力設定	アナログイン	入力タイプ	セパレート
		入力 1 ファンタムパワー	コンデンサー・マイク使用時はオン、ダイナミック・マイク使用時はオフ

内蔵マイクと外部マイクを組み合わせる

さらに外部入力マイクと内蔵マイクを組み合わせて、近距離から録った（オンマイク）楽器の音と、離れた距離から録った（オフ・マイク）部屋の響きを同時に録音することもできます。

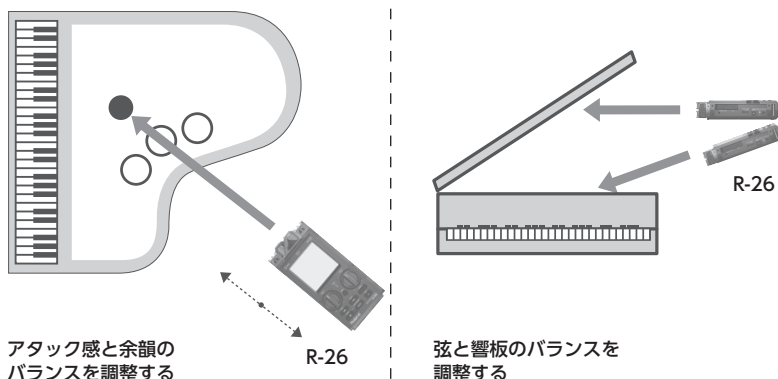
メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	4 チャンネル
	録音ソース	INT マイク + アナログイン
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	ソロ

メニュー名	入力設定メニュー	項目	設定値
入力設定	アナログイン	入力タイプ	リンク
		ファンタムパワー	コンデンサー・マイク使用時はオン、ダイナミック・マイク使用時はオフ

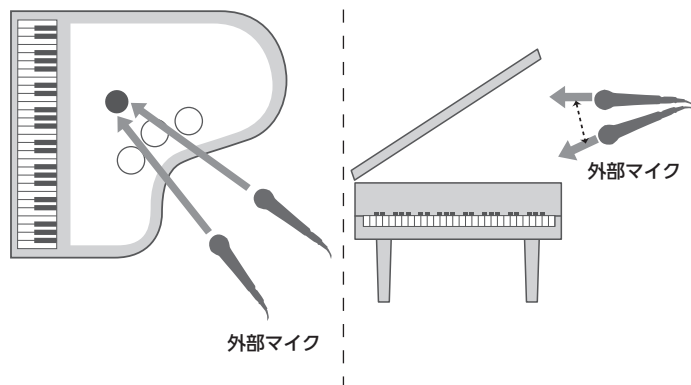
グランド・ピアノを録る

アコースティック・ピアノはピアノ全体の音が鳴っており、マイクを設置する場所によって音色が異なります。これは、場所によって弦の響き、ボディーの響き、反響板の反射音、ハンマーが弦にあたる音などのバランスが異なるからです。これらの要素をバランスよく録音するためには、さまざまな距離や方向からの録音を試して、最適な位置を見つけることがポイントです。

内蔵マイクを使う

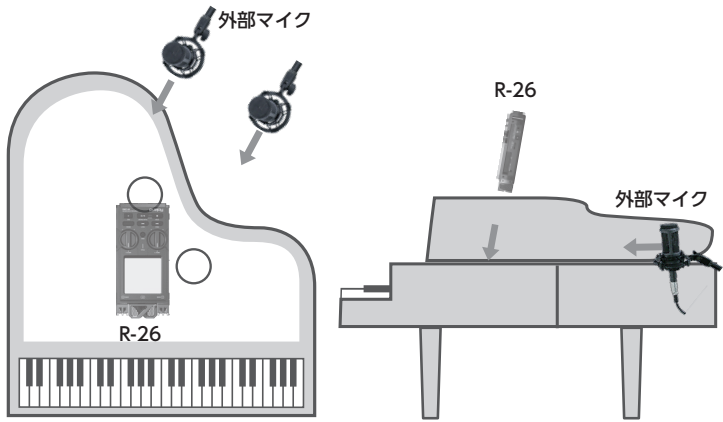
R-26 をグランド・ピアノ本体の S 字のくぼみから少し離れた位置に設置すると楽器全体が鳴っている音をバランスよく録音できます。マイクのねらう角度で弦の音と反響板の反射音のバランスを調整します。さらに距離でアタック感と余韻のバランスを調整します。

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	2 チャンネル
	録音ソース	内蔵マイク
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	ソロ

外部マイクを使う

ANALOG IN 1/L 端子、および ANALOG IN 2/R 端子に接続した 2 本のダイナミック・マイク、またはコンデンサー・マイクを、内蔵マイクを使った録音のとき（P.55）と同様の位置から角度と距離を調整します。

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	2 チャンネル
	録音ソース	アナログイン（ステレオ）

メニュー名	入力設定メニュー	項目	設定値
入力設定	アナログイン	入力タイプ	リンク
		ファンタムパワー	コンデンサー・マイク使用時はオン、ダイナミック・マイク使用時はオフ

内蔵マイクと外部マイクを組み合わせる

4 チャンネルを使って録音すれば、ピアノ全体が鳴っている音をさらにバランスよく録音できます。それぞれのマイクの位置から録音した音をミックスダウンすることにより、演奏するジャンルの音楽に最適なピアノの音色を作ることができます。

弦の響き用に内蔵マイクを、反響板の反射音用に ANALOG IN 1/L 端子、および ANALOG IN 2/R 端子に接続した 2 本のコンデンサー・マイクを設置します。

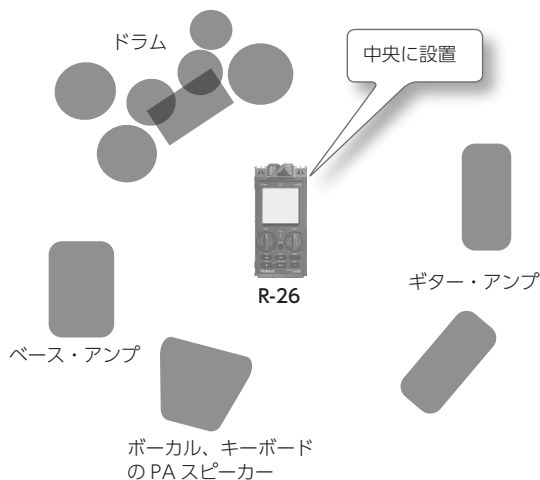
メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	4 チャンネル
	録音ソース	INT マイク + アナログイン
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	ソロ

メニュー名	入力設定メニュー	項目	設定値
入力設定	アナログイン	入力タイプ	リンク
		ファンタムパワー	オン

バンド演奏を録音する

入力レベルを設定するときは、楽曲の一番音量が大きい部分を演奏して、レベルを調整します。AUTO SENS機能(P.47)を使えば、最適な入力センスを自動的に設定することができ、さらに入力レベルの推奨値が表示されます。

内蔵マイクを使う

練習スタジオでは、楽器が部屋の周囲から中央に向かって配置されているのが一般的です。各楽器を均等に録るためには、スタジオの中央、高さはテーブルくらいに設置すると最適な音質で録音できます。床に設置すると、低音ばかりのこもった音になり、高い位置では低音が拾えず、薄い音になります。

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	2チャンネル
	録音ソース	内蔵マイク
入力センス設定・内蔵マイク	SENS	LOW

野外で録音する

内蔵マイクモードで指向性を調整することにより、音の景色全体をとらえたり、ねらったところをピンポイントで集音したりできます。さらに最大 6 チャンネル同時録音できる機能を生かし、種類のちがう内蔵マイク、外部マイクで別々のチャンネルに録音しておいて、選ぶこともできます。
プリレコーディング(P.34)をオンに設定しておくと、[●] ボタンを押した 2 秒前にさかのぼって録音を開始してくれるので、絶好のタイミングを録り逃しません。マイクモードは野外録音に最適な「フィールド」を選びます。

メニュー名	項目	設定値
録音設定	プリレコーディング	オン
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	フィールド

プラグイン・パワーのステレオ・マイクを使う

指向性の高いプラグイン・パワーのステレオ・ミニタイプのマイクを使うこともできます。さらに、イヤー・イン・タイプのバイノーラル・ステレオ・マイクを使ってバイノーラル録音も楽しめます。

メニュー名	入力設定メニュー	項目	設定値
入力設定	プラグイン	入力タイプ	ステレオ
		プラグインパワー	オン

※ バイノーラル録音とは
バイノーラル録音とは、ヘッドホンで聴くことを想定した録音方法です。人間の耳に近い条件で録音することで、ヘッドホンやイヤホンで再生したときに、録音したそのままの臨場感を再現することができます。バイノーラル録音で録った音をヘッドホンやイヤホンで聴けば、ステレオ録音では味わえない、3D 空間を感じるリアルなサウンドを楽しむことができます。

6 チャンネルで録音する

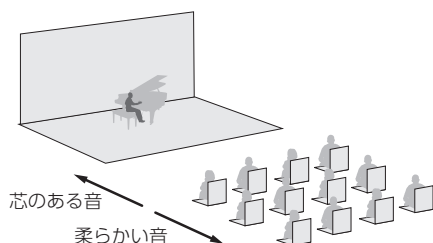
最適な録音をあとから選べるようにタイプのちがう内蔵マイクを別々のチャンネルに録音します。
指向性と無指向性のミックス、指向性内蔵マイクのみ、無指向性内蔵マイクのみをそれぞれ別のチャンネルに録音する設定：

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	6 チャンネル
	録音ソース	XY+OMNI+INT マイク
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	マニュアル

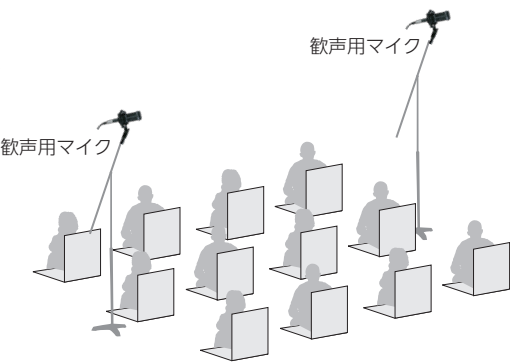
コンサートを録音する

本番演奏前のリハーサル時にあらかじめ演奏の最大音量でレベルを調整しておきます。
AUTO SENS 機能（P.47）を使えば、最適な入力センスを自動的に設定することができ、さらに入力レベルの推奨値が表示されます。
できるだけステージ中央の真正面から録音します。

内蔵マイクを使う

リハーサル時にヘッドホンでモニターしたり、試し録りを繰り返したりしながらステージからの距離や内蔵マイクモードを調整します。

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	2 チャンネル
	録音ソース	内蔵マイク
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	コンサート

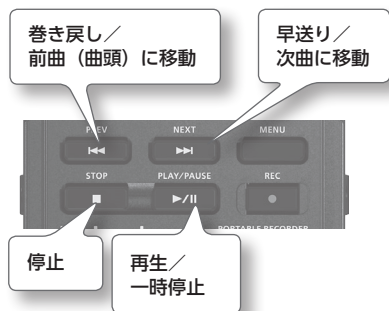
内蔵マイクと外部マイクを組み合わせる

さらに、外部入力マイクを使って客席の歓声や会場の響きも同時に録音することにより、臨場感を出すこともできます。

メニュー名	項目	設定値
録音設定	録音モード	4 チャンネル
	録音ソース	INT マイク + アナログイン
入力センス設定・内蔵マイク	MIC MODE	コンサート

メニュー名	入力設定メニュー	項目	設定値
入力設定	アナログイン	入力タイプ	リンク
		ファンタムパワー	コンデンサー・マイク使用時はオン、ダイナミック・マイク使用時はオフ

※ 録音が禁止されているコンサート会場で本機を使用しないでください。

再生する

再生の基本操作

1. 基本画面を表示させせます（P.16）。

2. [⏮]／[⏭] ボタンで再生したいプロジェクトを選びます。

ファインダー・メニューからもプロジェクトを選ぶことができます。『プロジェクトを開く』（P.70）

3. [▶/II] ボタンを押してプロジェクトを再生します。

再生中に [⏮] ボタンを押し続ける間は巻き戻し、[⏭] ボタンを押し続ける間は早送りをします。それぞれのボタンから手を離すと再び再生が始まります。

※ 再生中に巻き戻しや早送りの操作をするとき、SD カードの種類によっては、データの読み込み速度が間に合わず、巻き戻しや早送りの動作が停止してしまうことがあります。このようなときは、[■] ボタンを押して再生を終了してください。その後、もう一度再生してください。

4. [VOLUME] ダイヤル (P.14) で音量を調整します。

5. [■] ボタンを押して再生を終了します。

再生モードを選ぶ

プロジェクトの再生のしかたを設定します。1 番から順番通りに再生する基本的な再生の他にも、選んだ 1 プロジェクトのみを再生したり、プロジェクトの順番を自動的に入れ替えて再生（シャッフル再生）したりすることができます。

1. [MENU] →<再生設定>→<再生モード>を選びます。

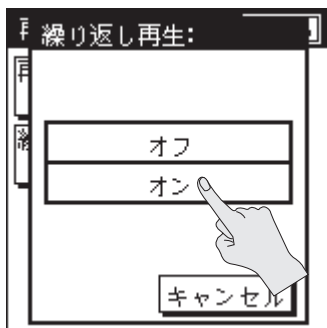
2. 選びたい再生モードにタッチします。

設定値	説明
1 曲再生	1 プロジェクトを再生
順番再生	順番通りに再生
シャッフル	シャッフル再生

繰り返し再生させる

選んだ再生モードでプロジェクトを繰り返し再生させます。

1. **［MENU］→<再生設定>→<繰り返し再生>を選びます。**

2. **繰り返し再生のオン／オフを設定します。**

設定値	説明
オフ	繰り返し再生しない
オン	繰り返し再生する

再生モードと繰り返し再生の組み合わせ

再生モードと繰り返し再生の設定の組み合わせは以下の通りです。

再生モード	繰り返し再生	説明
1 曲再生	オフ	1 プロジェクトのみ再生後停止
	オン	1 プロジェクトを繰り返し再生
順番再生	オフ	順番通り再生後停止
	オン	順番通り繰り返し再生
シャッフル	オフ	シャッフル再生後停止
	オン	シャッフルした順番で繰り返し再生

プロジェクト順について

プロジェクト順は、以下の文字列の規則に従って順番に表示されます。録音した順番ではありません。

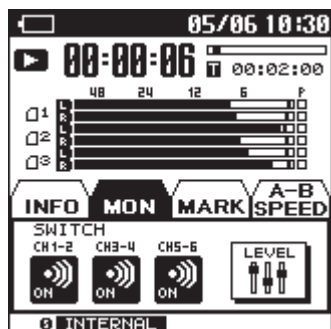
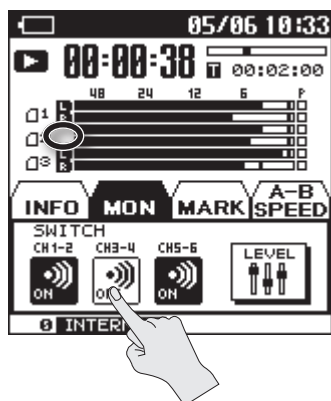
(スペース) ! # $ % & ' ( ) + , - . 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ; = @
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z] ^ _ `
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z { }
2 バイト文字

- 「.」で始まるファイル名は、表示されません。
- ファイルの拡張子が「.WAV」か「.MP3」以外のファイルは、表示されません。
- ディスプレイに表示されているファイル名は、MP3 の ID3 タグには対応していません。

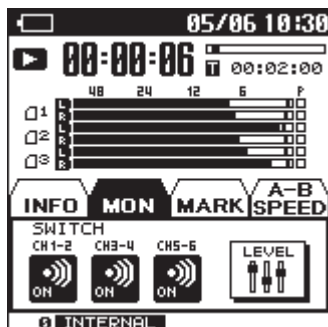
モニターを設定する

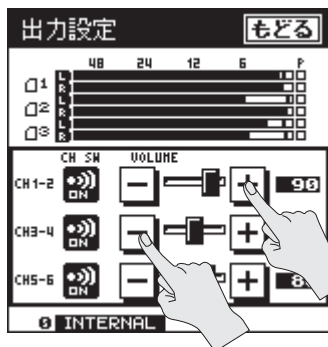
再生時のモニター環境を設定します。各チャンネルをオン／オフしたり、音量を調節することができます。

チャンネルをオン／オフする

1. 基本画面で MON のタブにタッチします。

2. オン／オフしたいチャンネルにタッチします。

オフされたチャンネルのインジケーターが消灯します。

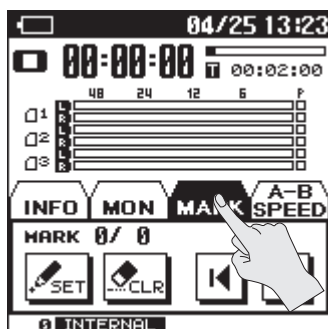
チャンネルの音量を調節する

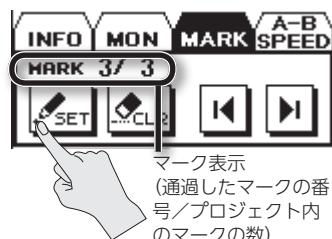
1. 基本画面で MON のタブにタッチします。

2. ＜ LEVEL ＞にタッチします。

3. [－]、[＋]にタッチして各チャンネルの音量を設定します。

プロジェクトにマークをつける

プロジェクト中の任意の位置にマークを付けてマークした位置にジャンプすることができます。

※ MP3 のプロジェクトには、マークをつけることができません。

1. 基本画面で MARK タブにタッチします。

2. [▶/II] ボタン、[■] ボタン、[I◀◀] ボタン、[▶▶I] ボタン] を使って再生や早送り、巻き戻しをしながら、マークをつけたい位置を探します。

3. マークをつけたい位置が見つかったら< SET >にタッチします。

マークの数が表示されます。マークは、プロジェクトの先頭から順に番号が付けられます。
マークは、最大 99 個まで付けることができます。手順 2、3 を繰り返して、必要なポイントにマークをつけていきます。

マークへ移動する

[I◀] にタッチして現在位置の直前のマークに移動します。

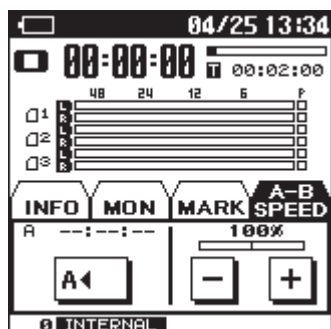
[▶I] にタッチして現在位置の直後のマークに移動します。

マークを削除する

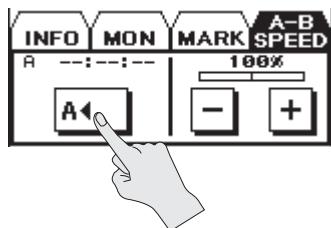
CLEAR アイコンにタッチして設定したマークを削除します。現在位置の直前にあるマークから順に削除されます。

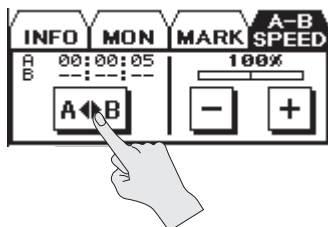
プロジェクトの一部を繰り返し再生する

プロジェクトの中で指定した一定区間を繰り返し再生します（AB リピート）。気になるところを何度でも繰り返し再生してチェックすることができます。

1. 基本画面で A-B SPEED タブにタッチします。

2. [▶/II] ボタンを押して、プロジェクトを再生します。

3. 開始地点（A マーク）を設定します。

再生中に<A◀　>にタッチします。その時点がリピート再生の開始地点（A マーク）となります。

4. 終了地点（B マーク）を設定します。

再生中に<A◀▶B>にタッチします。その時点がリピート再生の終了地点（B マーク）となり、A-B 間の繰り返し再生が始まります。

設定を解除する

- A マーク、B マークが設定されている状態で< OFF >アイコンにタッチすると、A マーク、B マークの設定が解除されます。
- 再生を止めるときは、[■] ボタンを押してください。リピート再生の設定（A マーク、B マーク）は記憶されたまま再生が停止します。

メモ

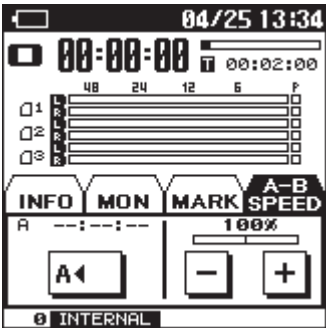
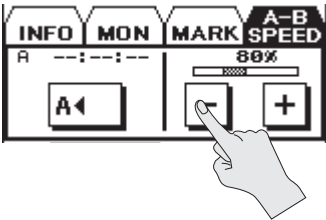
- A マークを設定した後、B マークを設定しないでプロジェクトが最後まで再生されてしまったときには、A マークとプロジェクトの終わりまでの間を繰り返し再生します。
- [◀◀] ／ [▶▶] で他のプロジェクトを選ぶと、リピートの設定は解除されます。

再生する速度を変える

ピッチを変えずに速く再生したり、ゆっくり再生したりすることができます。

※ サンプリング周波数が 88.2kHz、96kHz のプロジェクトを再生しているときは、再生速度を変えることはできません。

※ 再生速度を変えると、音質が変わります。

1. 基本画面で A-B SPEED タブにタッチします。

2. ⊟、⊞にタッチして再生速度を選びます。

設定値（%）
50、60、70、80、90、100（オフ）、110、120、130、140、150

再生可能なファイルの種類

R-26 では以下のオーディオ・ファイルを再生することができます。

- WAV

サンプリング周波数 (kHz)	サンプル・サイズ (bits)
44.1、48.0、88.2、96.0	16、24

- MP3

サンプリング周波数 (kHz)	ビットレート
44.1、48.0	32 ～ 320kbps、VBR

VBR とは

Variable Bit Rate（可変ビットレート）のことで、音の密度が低い場面ではビットレートを低くし、密度が高い場面ではビットレートを高くします。

プロジェクトやフォルダーを操作する

R-26 は SD カードに録音したプロジェクトを保存します。
「ファインダー」画面には、プロジェクトを一覧し、削除やコピーなどプロジェクトを操作するさまざまな機能があります。またフォルダーを作成して、プロジェクトをフォルダーに移動して管理することもできます。
『フォルダーを作成する』(P.81)

ファインダーの基本操作

プロジェクトの操作

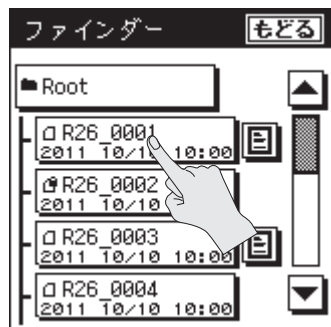
1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。
2. 操作したいプロジェクト名にタッチします。

   ▲、▼でスクロールします。

   にタッチすると音声メモが再生されます。

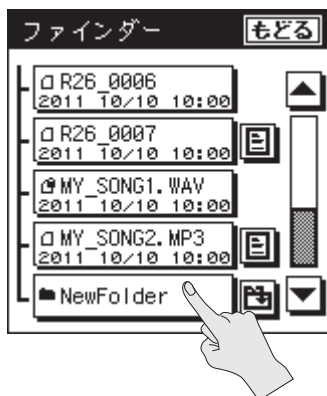
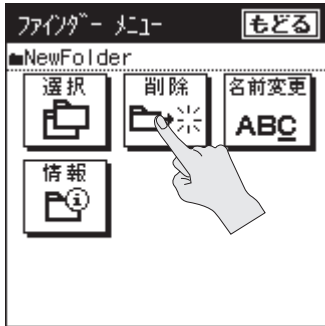
参照

『プロジェクトに音声メモを付ける／削除する』(P.77)

メモ

フォルダー内へ移動するときはフォルダー名の右の にタッチします。
フォルダーから抜けるときは にタッチします。

3. アイコンにタッチして機能を選びます。

フォルダーの操作

1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。
2. 操作したいフォルダーにタッチします。

ファインダー操作一覧

プロジェクト操作

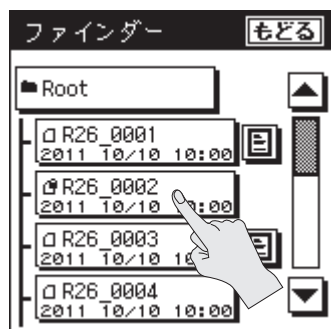
アイコン	機能	手順
選択	プロジェクトを選択して基本画面に移動します。	P.70
コピー	プロジェクトをコピーします。	P.70
移動	プロジェクトを移動します。	P.71
削除	プロジェクトを削除します。	P.71
名前変更	プロジェクト名を変更します。	P.72
エディット	プロジェクトの分割や、結合、不要部分の削除をします。	P.73
情報	プロジェクトの情報を表示します。また、プロジェクトを保護します。	P.76
メモ録音	プロジェクトに音声メモをつけます。	P.77
メモ削除	プロジェクトの音声メモを削除します。	P.79
MP3 作成	WAV ファイルを MP3 に変換します。	P.80
修復	プロジェクトを修復します。 ※ このメニューは、R-26 が壊れたプロジェクトを認識した場合にのみ表示されます。	P.80

フォルダー操作

アイコン	機能	手順
選択	フォルダー内の最初のプロジェクトを選択して基本画面に移動します。	P.70
削除	フォルダーを削除します。	P.71
名前変更	フォルダー名を変更します。	P.72
情報	フォルダーの情報を表示します。	P.76

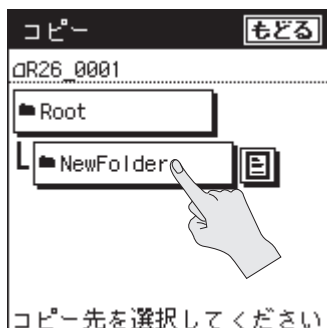
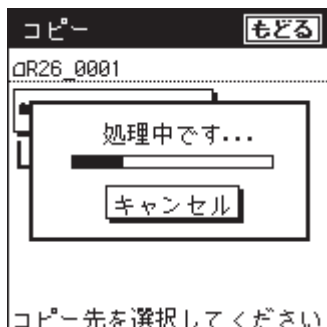
プロジェクトを開く

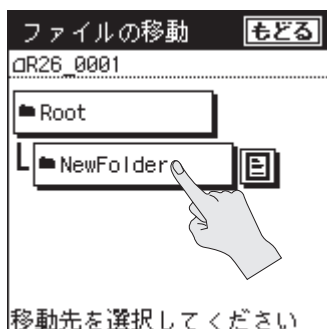
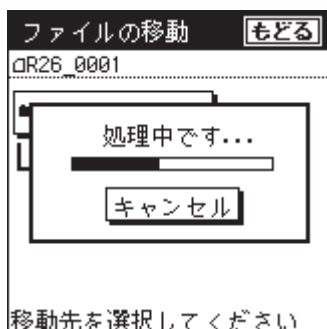
プロジェクトを再生したいときなどにこの操作を行います。
またフォルダーを選ぶと、現在位置が選択したフォルダーに移動し、フォルダー内の最初のプロジェクトを選択して基本画面に移動します。また、フォルダー内に録音することもできます。

1. MENU →<ファインダー>を選びます。
2. 操作したいプロジェクト名、またはフォルダー名にタッチします。

3. <選択>にタッチします。

プロジェクトが選択され、基本画面に戻ります。

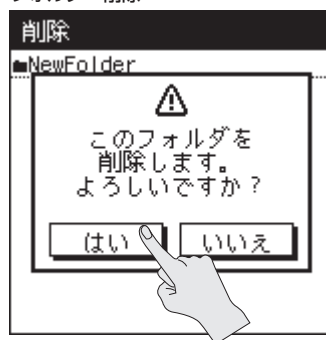
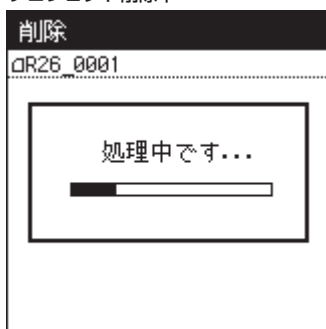
プロジェクトをコピーする

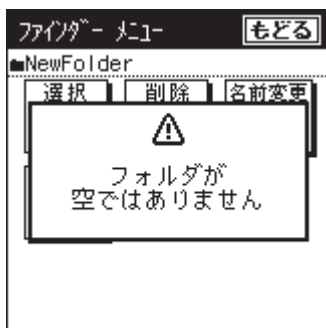
1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。
2. コピーしたいプロジェクト名にタッチします。
3. <コピー>にタッチします。
4. プロジェクトをコピーしたいフォルダーにタッチします。

コピーが実行されます。

プロジェクトを移動する

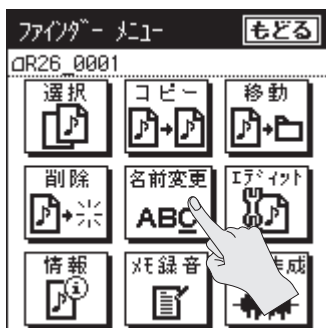
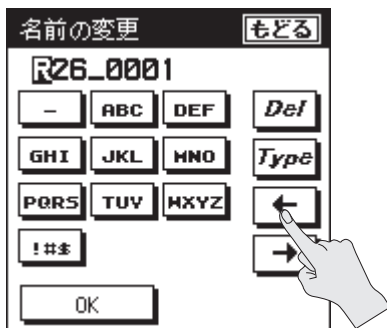
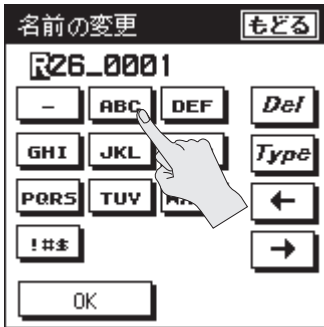
1. ［MENU］→<ファインダー>を選びます。
2. 移動したいプロジェクト名にタッチします。
3. <移動>にタッチします。
4. プロジェクトを移動したいフォルダーにタッチします。

移動が実行されます。

プロジェクトやフォルダーを削除する

1. ［MENU］→<ファインダー>を選びます。
2. 削除したいプロジェクト名、またはフォルダー名にタッチします。
3. <削除>にタッチします。
4. 削除するときは<はい>にタッチします。中止するときは<いいえ>にタッチします。

プロジェクト削除

フォルダー削除

プロジェクト削除中

フォルダー削除中

フォルダーを削除する場合、フォルダーが空になっていないと、以下のメッセージが出てフォルダーを削除することができません。フォルダーの中を空にしてから実行してください。

プロジェクト名やフォルダー名を変更する

1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。
2. 名前を変更したいプロジェクト名、またはフォルダー名にタッチします。
3. <名前変更>にタッチします。

4. 矢印にタッチして文字を挿入したい位置に合わせます。

5. **文字キーにタッチして文字を入力します。**

文字キーにタッチするたびに A、B、C と文字が変わります。< TYPE >にタッチして大文字、小文字、数字を切り替えます。
カーソルの位置の文字を削除するときは < DEL >にタッチします。

メモ

- R-26 本体でファイル名が変更できるのは、ASCII 文字 (英数半角) のファイル名のみです。
- 日本語など 2 バイト文字が含まれたファイル名は変更できません。
- 同じ名前がすでに存在する場合は、「すでに存在するファイルです」と表示されます。違う名前に変更してください。
- すべての文字を削除することはできません。必ず 1 文字残ります。

扱える文字

(スペース) ! # $ % & ' ( ) + , - . 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 ; = @
A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z] ^ _ `
a b c d e f g h i j k l m n o p q r s t u v w x y z { }

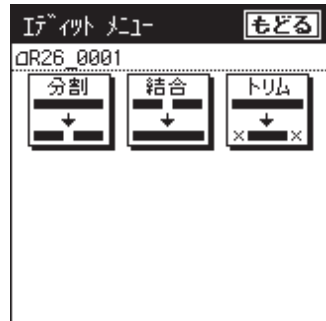
プロジェクトを分割／結合／不要部分削除する

ファインダーメニューのエディットメニューではプロジェクトの分割、結合、プロジェクトの不要部分の削除（トリム処理）ができます。

1. **［MENU］→<ファインダー>を選びます。**

2. **編集したいプロジェクト名にタッチします。**

3. **<エディット>にタッチします。**

エディットメニューが表示されます。

プロジェクトを分割する

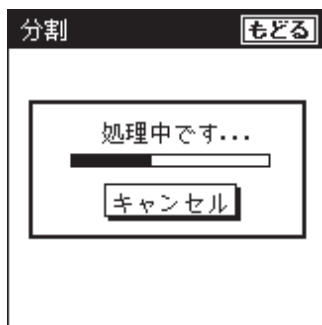
1. エディットメニューの＜分割＞アイコンにタッチします。

2. ［▶/II］／［■］、［|◀◀］／［▶▶|］ボタンを使って再生や早送り、巻き戻しをして、分割したい位置を探します。

アイコン	説明
	波形の波高が拡大表示されます。
	波形の波高が縮小表示されます。
	波形の時間軸が拡大表示されます。
	波形の時間軸が縮小表示されます。

4 チャンネルまたは 6 チャンネルのプロジェクトの場合、画面左下の＜ 1 ＞、＜ 2 ＞、＜ 3 ＞ボタンで表示する波形を切り替えることができます。

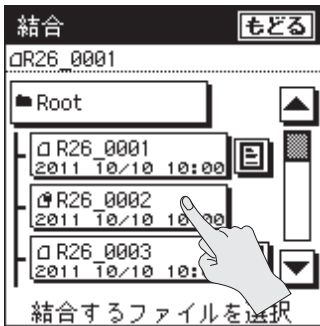
3. 位置が決まったら＜ポイント決定＞にタッチします。
   分割位置の情報が表示されます。

4. 分割するときは＜はい＞にタッチします。
   プロジェクト分割が実行されます。

分割されたプロジェクトは、それぞれ新しいプロジェクトとして保存されます。そのとき、編集元のプロジェクト名の後に -1 と -2 が自動的につけられます。編集元のプロジェクトはそのままの状態で残ります。編集元のプロジェクトが R26_0001.PJT という名前の場合は、R26_0001-1.PJT と R26_0001-2.PJT という名前の新しいプロジェクトが作成されます。

※ SD カードの空き容量が足りないときは、「カードの容量が足りません」とメッセージが表示され、分割ができません。

プロジェクトを結合する

1. **エディットメニューの＜結合＞にタッチします。**

2. **結合したいプロジェクト名にタッチします。**

結合が実行されます。

結合されたプロジェクトは、新しいプロジェクトとして保存されます。そのとき、編集元のプロジェクト名の後に -1 が自動的につけられます。編集元のプロジェクトはそのままの状態で残ります。編集元のプロジェクトが R26_0001.PJT という名前の場合は、R26_0001-1.PJT という名前の新しいプロジェクトが作成されます。

プロジェクトの不要部分を削除する（トリム処理）

1. **エディットメニューの＜トリム＞にタッチします。**

2. **[▶/II] ／ [■]、[I◀◀] ／ [▶▶I] ボタンを使って再生や早送り、巻き戻しをしながら、プロジェクトを残す先頭の位置を探します。**

アイコン	説明
	波形の波高が拡大表示されます。
	波形の波高が縮小表示されます。
	波形の時間軸が拡大表示されます。
	波形の時間軸が縮小表示されます。

4 チャンネルまたは 6 チャンネルのプロジェクトの場合、画面左下の＜ 1 ＞、＜ 2 ＞、＜ 3 ＞ボタンで表示する波形を切り替えることができます。

3. **位置が決まったら＜ポイント決定＞にタッチします。**

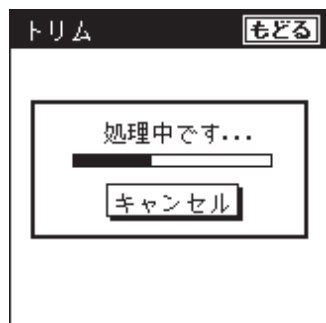
4. **[▶/II] ／ [■]、[I◀◀] ／ [▶▶I] ボタンを使って再生や早送り、巻き戻しをしながら、プロジェクトを残す末尾の位置を探します。**

手順 2 同様に位置を微調整します。

5. 位置が決まったら<ポイント決定>にタッチします。

プロジェクトを残す位置の情報が表示されます。

6. トリム処理をするときは<はい>にタッチします。

トリム処理が実行されます。

トリム処理されたプロジェクトは新しいプロジェクトとして保存されます。そのとき、編集元のプロジェクト名の後に -1 が自動的につけられます。編集元のプロジェクトはそのままの状態で残ります。
編集元のプロジェクトが R26_0001.PJT という名前の場合は、R26_0001-1.PJT という名前の新しいプロジェクトが作成されます。

プロジェクト情報を見る

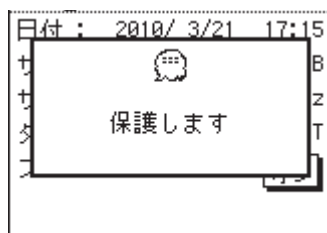
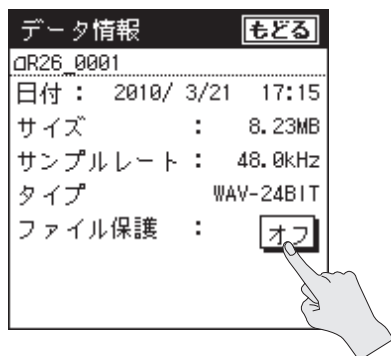
1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。

2. 情報を見たいプロジェクト名にタッチします。

3. <情報>にタッチします。

プロジェクトを保護する (Protect)

誤ってプロジェクトを消したり名前を変更したりしないように、プロジェクトを保護する設定を行います。

1. <オフ>にタッチします。

メモ

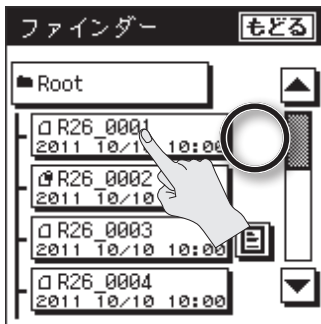
保護をオンにすると、アイコンに鍵マークがつきます。

プロジェクトに音声メモを付ける／削除する

録音したプロジェクトに30秒以内の音声メモを付けることができます。音声メモはファインダー画面でプロジェクト名の横に表示される[メモ]にタッチすると再生されます。テイク数などを録音しておくと便利です。

音声メモをつける

1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。
2. 音声メモを付けたいプロジェクト名にタッチします。

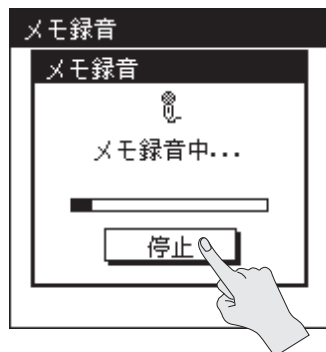
音声メモが付いていいないプロジェクト名の横には[メモ]が表示されていません。

※ すでに音声メモが付いているプロジェクトは、音声メモを削除してから新しい音声メモを付けなおすことができます。

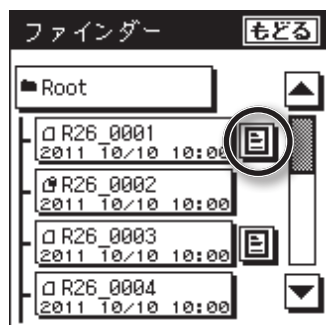
3. <メモ録音>にタッチします。

4. <はい>にタッチします。

メモ録音が開始されます。内蔵マイクに向かってメモの内容を話します。

5. メモ録音が終わったら<停止>にタッチします。

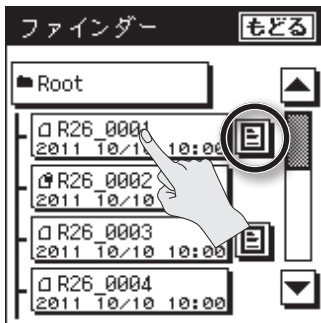
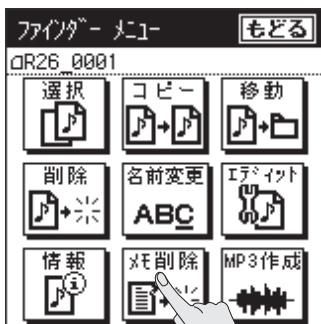
メモ録音開始から 30 秒経過すると<停止>を押さなくても自動的に停止します。

メモ録音が終わり、ファインダー画面に戻ります。

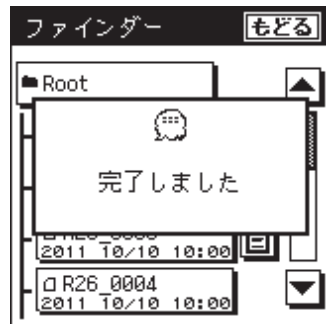
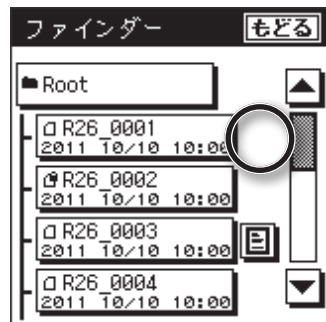
音声メモが付き が表示されます。

6. にタッチしてメモを再生します。

音声メモを削除する

1. [MENU] →<ファインダー>を選びます。

2. 音声メモを削除したいプロジェクト名にタッチします。

音声メモが付いているプロジェクト名の横には（メモ・アイコン）が表示されています。

3. <メモ削除>にタッチします。

4. <はい>にタッチします。

削除が完了すると、ファインダー画面に戻ります。

音声メモが削除され が消えます。

MP3 ファイルを作成する

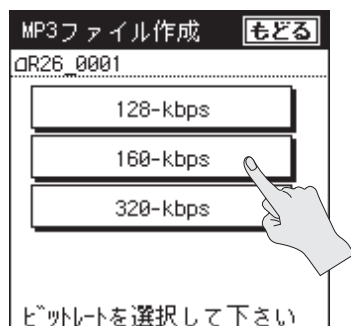
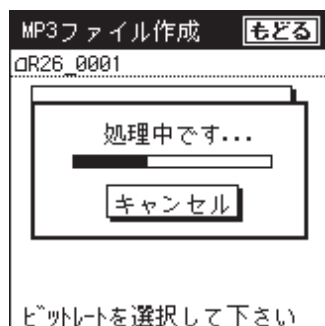
2 チャンネルの録音モードで録音された 44.1kHz、48.0kHz のプロジェクトを MP3 ファイルに変換することができます。

1. ［MENU］→<ファインダー>を選びます。

2. MP3 に変換したいプロジェクト名にタッチします。

3. < MP3 作成>にタッチします。

4. ビット・レートを選びます。

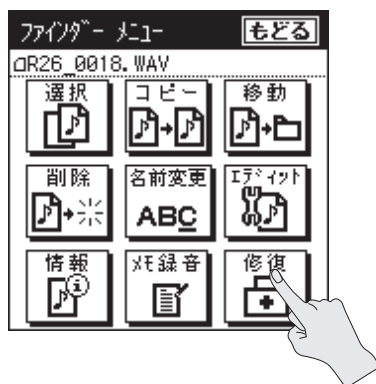
選びたいビット・レートにタッチします。

MP3 への変換が実行されます。

プロジェクトを修復する

録音中に過ってアダプターが抜けてしまったり、SD カードを抜いてしまうと、プロジェクトが壊れて再生ができなくなります。プロジェクトのリペア機能を使って修復することができる場合があります。

1. ［MENU］→<ファインダー>を選びます。

2. プロジェクト名にタッチします。

プロジェクトが壊れているときのみ<修復>アイコンが表示されます。

3. <修復>にタッチします。

4. ＜はい＞にタッチします。

修復が実行されます。

※ プロジェクトの破損状況によっては修復できないこともあります。

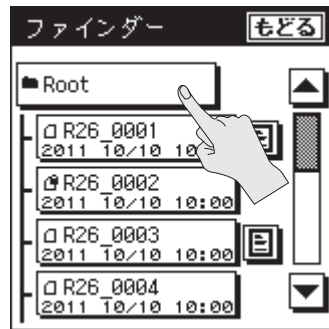
フォルダーを作成する

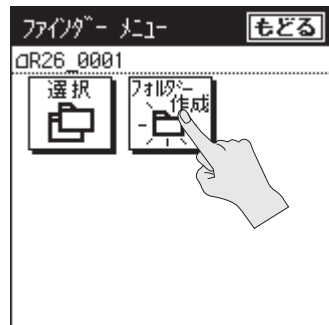
SD カード内にフォルダーを作ってプロジェクトを管理することができます。

Root にフォルダーを作成する

SD カード内の一番上の階層（Root）にフォルダーを作成します。

1. [MENU] →＜ファインダー＞を選びます。

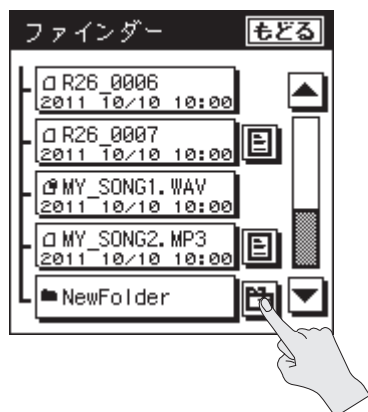
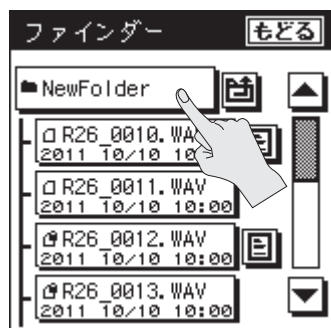
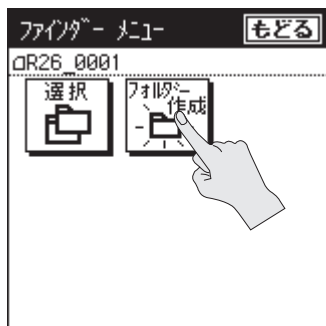
2. ＜ Root ＞にタッチします。

3. ＜フォルダー作成＞にタッチします。

「New Folder」が作成されます。

フォルダー内にフォルダーを作成する

すでに作成されたフォルダーの中に新たにフォルダーを作成します。

1. ［MENU］→＜ファインダー＞を選びます。

2. 新しいフォルダーを作りたいフォルダー内へ移動します。

移動先のフォルダー名の右側の（アイコン）にタッチします。

3. 一番上に表示されているフォルダー名にタッチします。

4. ＜フォルダー作成＞アイコンにタッチします。

「New Folder」が作成されます。

USB でパソコンにつなぐ

USB ケーブルを使用して、R-26 の USB 端子とお使いのパソコンの USB 端子を接続すると以下のようなことができます。

マス・ストレージ

R-26 の SD カードの中にあるプロジェクトをパソコンにバックアップしたり、パソコンの WAV ファイルや MP3 ファイルを R-26 の SD カードに書き込んだりすることができます。

参照

『パソコンとファイルのやり取りをする（マス・ストレージ）』（P.84）

オーディオ・インターフェース

R-26 の入力音を USB を通してパソコンのソフトウェアで録音することができます。
また、パソコンのソフトで再生された音を R-26 の PHONES 端子に接続したヘッドホンやスピーカーで鳴らしたり、R-26 で録音することもできます。さらに、パソコンのソフトウェアで再生した音と R-26 の入力をミックスして、再度パソコンに入力することができます。

参照

『R-26 をオーディオ・インターフェースとして使う』（P.89）

※ R-26 本体のプレビューモニターからは、<オーディオ I/F >メニューの入力ディバイスがアナログイン（ステレオ）、またはアナログイン（モノラル）を選択しているときのみに音が出ます。

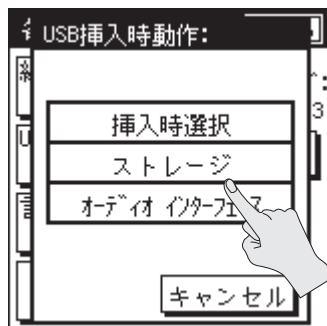
※ USB オーディオ・インターフェースを使うには、最初に USB ドライバーをインストールする必要があります。詳しくは『USB ドライバーをインストールする』（P.90）をご覧ください。

USB 接続時のモードを設定する

R-26 を USB ケーブルでパソコンにつないだとき、マス・ストレージ、オーディオ・インターフェースのいずれの動作をするかあらかじめ設定しておくことができます。また「挿入時選択」（初期値）に設定しておけば、接続時に選択することもできます。

1. ［MENU］→<各種設定>→< USB 挿入時動作>を選びます。

「USB 挿入時動作」はページ 3/3 にあります。▼を押して 3/3 を表示します。

2. 選びたいモードにタッチします。

モード	説明
挿入時選択	パソコンと USB ケーブルで接続したときに選択画面を表示します。
ストレージ	パソコンと USB ケーブルで接続したときにマス・ストレージ・モードになります。
オーディオ・インターフェース	パソコンと USB ケーブルで接続したときにオーディオ・インターフェースになります。

概要 準備 録音 再生 ファイル操作 パソコン 資料

パソコンとファイルのやり取りをする（マス・ストレージ）

WAV ファイルまたは MP3 ファイルを R-26 からパソコンへコピーしたり、パソコンから R-26 へコピーできます。パソコン上でファイルをドラッグ＆ドロップしてファイルをコピーします。

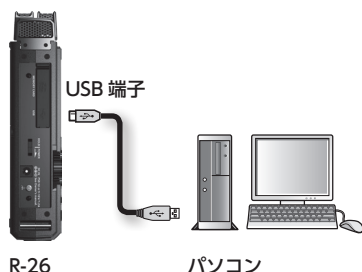
R-26 とパソコンを接続する

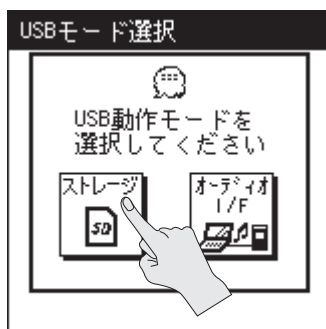
1. **パソコンを起動します。**

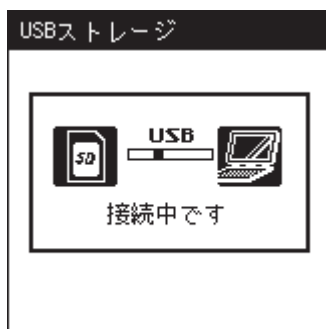
2. **R-26 の SD カード・スロットに、SD カードが挿し込まれていることを確認します。**

『SD カードをセットする』（P.26）

3. **R-26 の電源を入れます（P.24）。**

4. **付属の USB ケーブルで R-26 とパソコンを接続します。**

5. **モードを選びます（「挿入時選択」を選択している場合のみ）。**

USB 挿入時動作 (P.83) を「挿入時選択」に設定している場合、R-26 とパソコンを接続するとマス・ストレージ・モードかオーディオ・インターフェース・モードを選ぶ画面が表示されます。ここでは <ストレージ>にタッチしてください。

R-26 がマス・ストレージ・モードでパソコンに接続されると、R-26 のディスプレイには「USB ストレージ」画面が表示されます。

※ USB 挿入時動作で「ストレージ」を選択している場合は USB ケーブルで R-26 とパソコンを接続するとこの画面が表示されます。

R-26 の SD カードは、パソコンからは次のように認識されます。

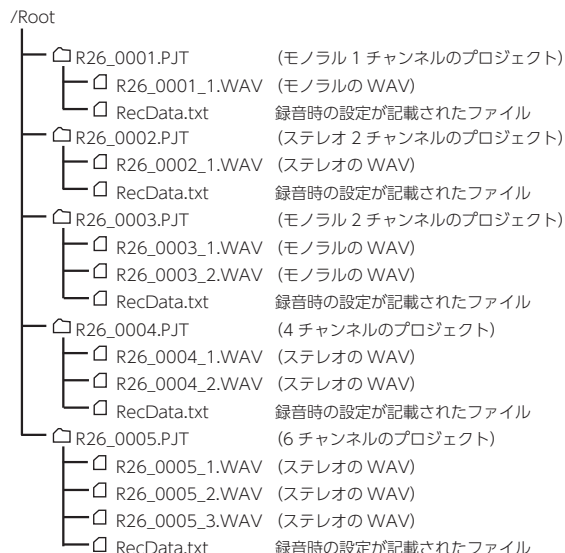
OS	パソコン上の表示
Windows	マイコンピューターやエクスプローラーにリムーバブルディスクなどの名前で表示されます。
Mac OS	NO NAME などの名前でデスクトップに表示されます。

ご注意！

- USB ケーブルでパソコンに接続するときは、プラグの金属部分に触れないようにし、できるだけ付け根部分を持って接続してください。
- 再生、録音中にはパソコンと接続しても認識されません。R-26 とパソコンを接続している USB ケーブルを外し、手順 3 に戻って操作しなおしてください。
- パソコンと接続された状態の「USB ストレージ」画面では、本体で操作する機能は使用できません。ボタンやスイッチなどを操作しても無視されます。
- パソコンに「この種類のファイルのディスクを挿入したり～」と表示された場合は＜キャンセル＞をクリックします。

プロジェクトのファイル構成

R-26 をパソコンに接続すると SD カード内のフォルダーやファイルの構成を確認できます。

録音モード	構成
1 チャンネル	プロジェクトの名前に .PJT という拡張子が付いた名前のフォルダーが作成されます。フォルダーの中にプロジェクト名 _1.WAV と言う名前のモノラルの WAV が作成されます。
2 チャンネル (STEREO×1)	プロジェクトの名前に .PJT という拡張子が付いた名前のフォルダーが作成されます。フォルダーの中にプロジェクト名 _1.WAV またはプロジェクト名 _1.MP3 と言う名前のステレオの WAV、または MP3 ファイルが作成されます。
2 チャンネル (MONO×2)	プロジェクトの名前に .PJT という拡張子が付いた名前のフォルダーが作成されます。フォルダーの中にプロジェクト名 _1.WAV、プロジェクト名 _2.WAV と言う名前のモノラルの WAV が作成されます。
4 チャンネル (STEREO×2) 6 チャンネル (STEREO×3)	4 チャンネル、または 6 チャンネル録音の場合、プロジェクトの名前に .PJT という拡張子が付いた名前のフォルダーが作成されます。そのフォルダーの中に、プロジェクト名 _1.WAV、プロジェクト名 _2.WAV、プロジェクト名 _3.WAV と言う名前のステレオの WAV ファイルが作成されます。

※ R-26 で録音したプロジェクトの中には「RecData.txt」という録音時の設定が記載されたファイルが生成されます。(エディットしたプロジェクトにはこのファイルは存在しません。)

※ 録音メモ (P.77) を付けたプロジェクトには、MEMO.MP3 というファイルが生成されます。

ご注意！

パソコンでプロジェクト内のファイルの変更や削除をしたり、名称を変更したりすると R-26 でそのプロジェクトを再生することができなくなる場合があります。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと R-26 の接続を解除します。必ず、次の手順に従って接続を解除し、USB ケーブルを抜いてください。

ご注意！

R-26 がパソコンに接続されている状態のときに R-26 の電源を切ったり、USB ケーブルや SD カードを抜いたりしないでください。

Windows 7

1. Windows のタスクトレイ内にあるアイコンをクリックし、続いてアイコンをクリックします。

2. 「R-26 の取り出し」というメッセージをクリックします。

「ハードウェアの取り出し」というメッセージが表示されたら、R-26 とパソコンを接続している USB ケーブルから取り外すことができます。

Windows Vista/Windows XP

1. 「ハードウェアの (安全な) 取り外し」ダイアログを表示させます。

Windows のタスクトレイ内にあるハードウェアの（安全な）取り外し アイコンをダブルクリックします。

2. 表示されたハードウェアデバイスの欄から、R-26 を示す項目を選びます。

OS	表示
Windows Vista	USB 大容量記憶装置
Windows XP	USB 大容量記憶装置デバイス

4. ダイアログの＜停止＞をクリックします。

5. ＜ OK ＞をクリックします。

ハードウェアデバイスの停止ダイアログが表示されたら、R-26 の SD カードを示す項目を選んで＜ OK ＞をクリックします。

6. 接続を解除します。

「USB 大容量記憶装置デバイス（または USB ディスク）は、安全に取り外すことができます。」と表示されたら、R-26 とパソコンを接続している USB ケーブルから取り外すことができます。

Mac OS

1. 「NO NAME」を Dock のゴミ箱にドラッグします。

Dock 右端のゴミ箱が表示されている場所にドラッグすると、表示がゴミ箱から⏏に変わり、接続を解除することができます。

2. 接続を解除します。

デスクトップから「NO NAME」または「名称未設定」のアイコンが消えたら、R-26 とパソコンを接続している USB ケーブルから取り外すことができます。または、R-26 の電源を切ることができます。

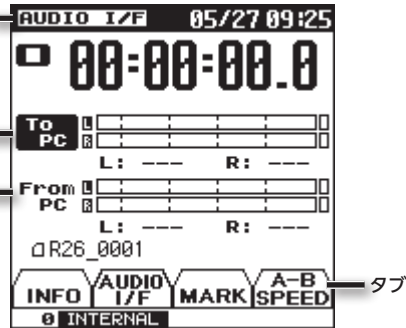
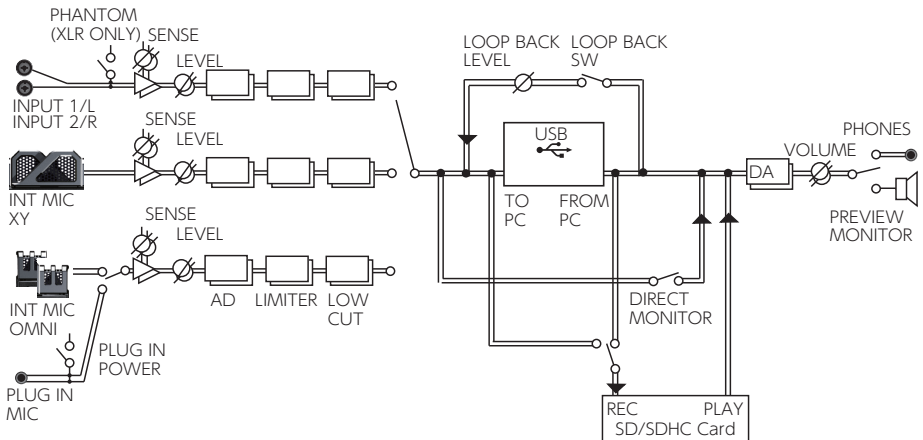
※ 本製品は上記条件を満たす標準的なコンピューターで動作を確認しておりますが、この条件下での動作すべてを保証するものではありません。同一条件下でもコンピューター固有の設計仕様や使用環境の違いにより処理能力が異なることをご了承願います。

R-26 をオーディオ・インターフェースとして使う

R-26 からの入力音を USB を通じてパソコンのソフトウェアで録音することができます。
また、同時に本体で録音や再生ができます。

※ オーディオ・インターフェースで設定しているサンプリング周波数と異なるサンプリング周波数のプロジェクトは再生できません。

※ 本体で再生したプロジェクトは、PHONES 端子から出力されます。パソコン側に出力することはできません。

オーディオ・インターフェース・モードの基本画面

オーディオ・インターフェースのブロック・ダイヤグラム

USB ドライバーをインストールする

USB オーディオ・インターフェースを使うには、最初に USB ドライバーをインストールする必要があります。

1. USB ドライバーを、パソコンにインストールします。

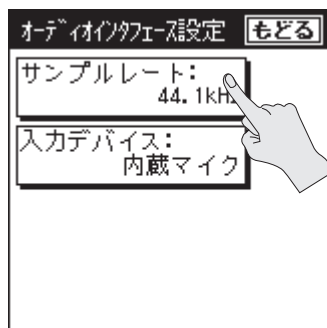
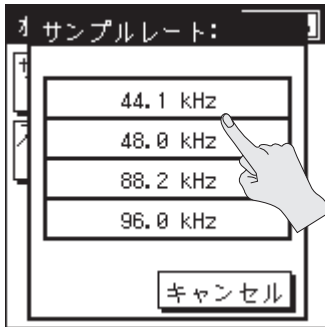
R-26 専用ドライバーは、付属の SD カードに収録されています。
また、ローランドのホームページからもダウンロードできます。

ローランドのホームページ
http://www.roland.co.jp/support/

動作条件については、ローランドのホームページをご覧ください。ドライバーはご使用の環境によってインストールするプログラム、手順が異なります。SD カードに収録されている Readme.htm をよく読んだ上でお使いください。

サンプリング周波数を設定する

録音データの用途に応じてサンプリング周波数を選びます。パソコンのソフトウェアに録音する場合はソフトウェアで使用できるサンプリング周波数を設定します。

1. [MENU] →＜オーディオ I/F ＞→＜サンプルレート＞を選びます。

2. 選びたいサンプリング周波数にタッチします。

サンプリング周波数
44.1KHz
48.0KHz
88.2KHz
96.0KHz

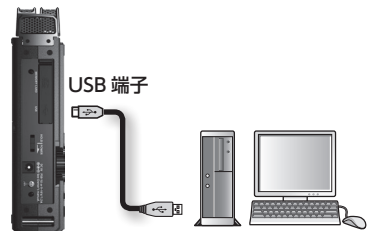
3. <もどる>にタッチします。

※ オーディオ・インターフェース・モードで接続されている状態でサンプリング周波数の設定を変更をすると、以下の画面が表示されます。R-26 に接続されている USB ケーブルをいったんケーブルを抜いてから再度差し込んでください。

R-26 とパソコンを接続する

1. パソコンを起動します。

2. R-26 の電源を入れます（P.24）。

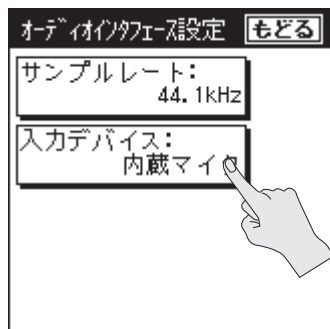
3. 付属の USB ケーブルで R-26 とパソコンを接続します。

4. モードを選びます（「挿入時選択」を選択している場合のみ）。

USB 挿入時動作 (P.84) を「挿入時選択」に設定している場合、R-26 とパソコンを接続するとマス・ストレージ・モードかオーディオ・インターフェース・モードを選ぶ画面が表示されます。
ここでは<オーディオ I/F >にタッチしてください。

概要 準備 録音 再生 ファイル操作 パソコン 資料

入力デバイスを設定する

1. ［MENU］→<オーディオ I/F >→<入力デバイス>を選びます。

2. <入力デバイス>にタッチします。

3. 入力を選びます。

設定値	説明
内蔵マイク	内蔵マイク（指向性内蔵マイク、無指向性内蔵マイクのミックス）を選びます。
アナログイン（ステレオ）	ANALOG IN 1/L 端子、ANALOG IN 2/R 端子からの入力を選びます。ステレオで録音されます。
アナログイン（モノラル）	ANALOG IN 1/L 端子とANALOG IN 2/R 端子からの入力を選びます。モノラル ×2 で録音されます。
プラグインマイク	PLUG IN MIC 端子の入力を選びます。

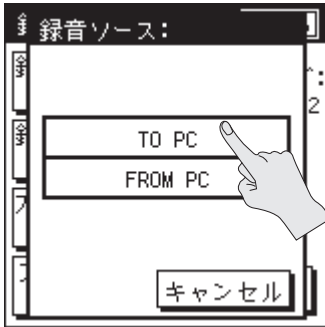
4. パソコンのオーディオ録音ソフトで、音声の入力を R-26 に切り替えます。

入力元の切り替えかたは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

R-26 本体で同時に録音する

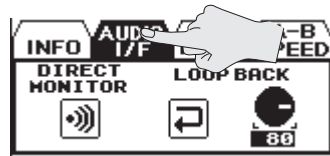
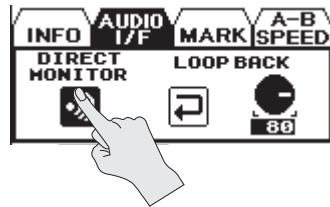
R-26 に入力された音をパソコンのソフトウェアに録音するのと同時に R-26 本体で録音することができます。

1. **［MENU］→＜録音設定＞→＜録音ソース＞を選びます（P.18）。**

2. **＜ TO PC ＞を選びます。**

設定値	説明
TO PC	R-26 からパソコンに入力する信号
FROM PC	パソコンから R-26 に入力する信号

ダイレクト・モニターを使う

ダイレクト・モニターをオンにすると R-26 に入力される音をヘッドホンやスピーカーでモニターすることができます。

1. **＜ AUDIO IF ＞タブにタッチします。**

2. **＜ DIRECT MONITOR ＞アイコンにタッチしてオン／オフを切り替えます。**

パソコンで再生した曲を R-26 で鳴らす

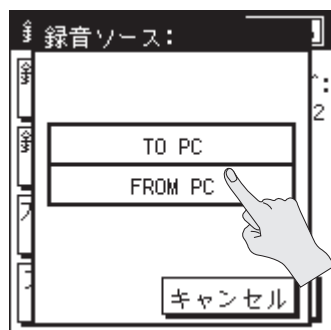
パソコンで再生したオーディオを、USB を通じて R-26 に接続した出力機器から聴くことができます。また、同時に R-26 本体で録音することもできます。

1. パソコンのオーディオ再生ソフトで、音声の出力先を R-26 に切り替えます。

出力先の切り替えかたは、お使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

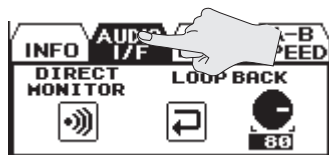
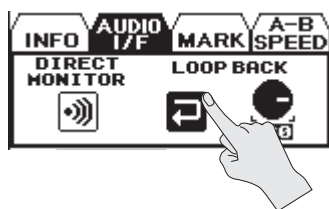
再生音を R-26 本体で録音する

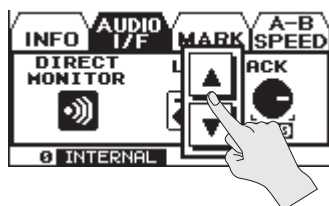
1. ［MENU］→＜録音設定＞→＜録音ソース＞を選びます（P.18）。

2. ＜ FROM PC ＞を選びます。

設定値	説明
TO PC	R-26 から PC に入力する信号
FROM PC	PC から R-26 に出力する信号

ループ・バック機能を使う

R-26 にはパソコンのソフトウェアで再生した音に R-26 の入力をミックスして、再びパソコンに戻す LOOP BACK（ループバック）機能があります。再生する音楽にナレーションをつけて新たにパソコンのソフトウェアで録音したり、ストリーム配信したりできます。

1. AUDIO IF タブにタッチします。

2. ＜ LOOP BACK ＞にタッチしてオン／オフを切り替えます。

3. つまみのアイコンにタッチしてパソコンで再生する音の音量を調節します。

▲、▼にタッチして音量を調節します。

R-26 本体の各種設定

カテゴリー	メニュー／効果	値（初期値：太字）	
録音設定	**録音モード** 録音するチャンネル数を設定します（P.31）。 ※ オーディオ・インターフェース・モードでは 2 チャンネル固定です。	1 チャンネル、**2 チャンネル**、4 チャンネル、6 チャンネル	
	録音ソース 入力装置を選びます（P.31）。	1 チャンネル	アナログイン (モノラル)
		2 チャンネル	**内蔵マイク**、アナログイン（ステレオ)、アナログイン (モノラル)、プラグインマイク
		4 チャンネル	**XY+OMNI**、INT+ アナログイン、アナログイン + プラグイン、XY+ プラグイン、XY マイク +OMNI マイク S、アナログイン S+INT マイク、アナログイン S+ プラグインマイク
		6 チャンネル	**XY+OMNI+INT**、XY+OMNI+ アナログイン、XY+ アナログイン + プラグイン、アナログイン S+XY+OMNI マイク、アナログイン S+XY+ プラグインマイク
		オーディオ・インターフェース・モード	**TO PC**、FROM PC
	サンプルレート 録音時のサンプリング周波数を設定します(P.33)。	**44.1 kHz**、48.0 kHz、88.2 kHz、96.0 kHz	
	録音フォーマット 録音するファイル形式を設定します（P.34）。	WAV+MP3、MP-3 128 kbps、MP-3 160 kbps、MP-3 320 kbps、**WAV 16-bit**、WAV 24-bit、	
	プリレコーディング プリレコーディング機能を設定します（P.34）。	**オフ**、オン	
	ファイル名 プロジェクト名の付けかたを設定します (P.35)。	日付、**番号**	
	自動録音開始 自動録音開始機能を設定します（P.35）。	**オフ**、2 秒、5 秒、10 秒、レベル 1、レベル 2、レベル 3	
	自動マーキング 自動でマーキングする条件を設定します (P.50)。	**オフ**、5 分、10 分、30 分、レベル 1、レベル 2、レベル 3	
	最大ファイルサイズ プロジェクトを自動分割するファイル・サイズを設定します（P.51）。	64MB、128MB、256MB、512MB、1GB、**2GB**	

R-26 本体の各種設定

カテゴリー	メニュー／効果		値（初期値：太字）
録音設定	**ファイルタイプ** WAV ファイルに録音時刻や録音機器の情報を含めるかどうかを設定します。(P.36)。		**WAV**、BWF
再生設定	**再生モード** プロジェクトを再生する順番を設定します (P.62)。		1 曲再生、**順番再生**、シャッフル
	繰り返し再生 繰り返し再生を行うかどうかを設定します (P.63)。		**オフ**、オン
入力設定	**内蔵マイク** (P.36)	**リミッター** リミッターを設定します。	**オフ**、オン
		LCF スイッチ ローカット・フィルターのオン／オフを設定します。	**オフ**、オン
		LCF カットオフ ローカット・フィルターでカットする周波数を設定します。	**100 Hz**、200 Hz、400 Hz、
	アナログイン (P.38) ※ 1 ※ 2	**外部入力タイプ** 外部入力タイプを設定します。	**セパレート**、リンク、MS マイク
		入力 1 ファンタムパワー ANALOG IN 1/L 端子にファンタム電源を供給するかどうか設定します。	**オフ**、オン
		入力 1 リミッター リミッターを設定します。	**オフ**、オン
		入力 1 LCF スイッチ ローカット・フィルターのオン／オフを設定します。	**オフ**、オン
		入力 2 ファンタムパワー ANALOG IN 2/R 端子にファンタム電源を供給するかどうか設定します。	**オフ**、オン
		入力 2 リミッター リミッターを設定します。	**オフ**、オン
		入力 2 LCF スイッチ ローカット・フィルターのオン／オフを設定します。	**オフ**、オン
		LCF カットオフ ローカット・フィルターでカットする周波数を設定します。	**100 Hz**、200 Hz、400 Hz、
		MS-MIC 設定 音の広がりを調節します。	0 ～ **5** ～ 10
		モニター・タイプ ANALOG IN 1/L 端子、2/R 端子からの入力をモニターするときの音のタイプを選びます。	**ステレオ**、モノ

カテゴリー	メニュー／効果		値（初期値：太字）
入力設定	**プラグイン** (P.41)	**マイクタイプ** プラグイン・マイクのタイプを設定します。	**ステレオ**、モノラル
		プラグインパワー プラグイン・マイクに電源を供給するかどうかを設定します。	**オフ**、オン
		リミッター リミッターを設定します。	**オフ**、オン
		LCF スイッチ ローカット・フィルターのオン／オフを設定します。	**オフ**、オン
		LCF カットオフ ローカット・フィルターでカットする周波数を設定します。	**100 Hz**、200 Hz、400 Hz、
※ 1「入力 2」の設定は外部入力タイプを「セパレート」に設定しているときのみ表示されます。 ※ 2「MS-MIC 設定」は外部入力タイプを「MS マイク」に設定しているときのみ表示されます。			
各種設定	**コントラスト** ディスプレイの文字の明るさを調節します。		0 〜 **5** 〜 10
	バックライト ディスプレイのバックライトの明るさを調節します。		オフ、1、**2**、3 〜 9
	点灯時間 一定期間操作しないときに、ディスプレイのバックライトが暗くなるまでの時間を設定します。（単位：秒）		連続、2 秒、**5 秒**、10 秒、20 秒
	REC/PEAK LED 点灯時間に連動して REC インジケーターや PEAK インジケーターも消灯させるかどうかを設定します。		**通常モード**、省電力モード
	録音モニター 録音時に入力する音声をヘッドホンでモニターする／しないを切り替えます。		オフ、**オン**
	プレビューモニター 再生時のプレビュー･モニター (P.15) のオン／オフを設定します。		オフ、**オン**
	オート・オフ 一定時間操作をしないときに、電源が切れるまでの時間を設定します。（単位：分）		オフ、3 分、5 分、10 分、15 分、**30 分**、45 分、60 分
	電池の種類 使用する電池の種類を設定します。		**アルカリ**、ニッケル水素
	終止電圧（外部）アダプター 付属の AC アダプターまたは外部電源の終止電圧を選びます（P.23）。		**アダプター**、9.0V、9.5V、10.0V、10.5V、11.0V、11.5V、12.0V
	USB 挿入時動作 パソコンと USB 接続したときのモード (P.83) を設定します。		**挿入時選択**、ストレージ、オーディオインターフェース

R-26 本体の各種設定

<table>
<tr><th>カテゴリー</th><th>メニュー／効果</th><th colspan="2">値（初期値：太字）</th></tr>
<tr><td rowspan="2">各種設定</td><td>言語設定
ディスプレイに表示する言語を選びます。</td><td colspan="2">日本語、English</td></tr>
<tr><td>パネル調整
タッチ・パネルの感度調整を行います。</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td rowspan="2">オーディオ I/F</td><td>サンプルレート
オーディオインターフェース・モードで使用するサンプリング周波数を設定します（P.90）。</td><td colspan="2">44.1 kHz、48.0 kHz、88.2 kHz、96.0 kHz</td></tr>
<tr><td>入力デバイス
オーディオインターフェース・モードで使用する入力装置を選びます（P.92）。</td><td colspan="2">内蔵マイク、アナログイン（ステレオ）、アナログイン (モノラル)、プラグイン マイク</td></tr>
<tr><td rowspan="2">SD カード</td><td>カード情報
SD カードの情報を表示します。</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>フォーマット
SD カードをフォーマットします（P.27）。</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>設定初期化</td><td>R-26 を初期化します（P.99）。</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td>時計設定</td><td>時計設定
日付と時刻を設定します（P.25）。</td><td colspan="2">–</td></tr>
<tr><td rowspan="4">SENS
（入力センス）</td><td rowspan="2">SENS
入力センスを調節します（P.44）。</td><td>INT MIC、PLUG-IN</td><td>LOW、MID、HIGH</td></tr>
<tr><td>ANALOG1、ANALOG2</td><td>+4dBu、-2dBu、-8dBu、-14dBu、-20dBu、-26dBu、-32dBu、-38dBu、-44dBu、-50dBu、-56dBu、-62dBu</td></tr>
<tr><td>MIC MODE
（内蔵マイク選択時のみ）
内蔵マイクの指向性を調節します（P.42）。</td><td>INT MIC</td><td>ソロ、コンサート、フィールド、オムニマイク、XY マイク、マニュアル</td></tr>
<tr><td>AUTO SENS
入力センスを自動調節し、入力レベルの最適値を表示します（P.47）。</td><td colspan="2">–</td></tr>
</table>

R-26 を工場出荷時の状態に戻す（設定の初期化）

R-26 の各種設定を、工場出荷時の状態に戻すことができます。

1. [MENU] を押して、メニュー画面を表示させます。

2. <設定初期化>にタッチします。

3. 初期化するときは<はい>にタッチします。中止するときは<いいえ>にタッチします。

初期化が終わるとメッセージが表示され、メニュー画面に戻ります。

エラー・メッセージ一覧

ディスプレイに表示されるエラー・メッセージについて説明します。

メッセージ	症状
⚠日付／時間を設定してください	内蔵時計用の電力がなくなってしまったため、内蔵時計を初期化しました。 日付と時刻を設定してください。
⚠バッテリーが低下しています	乾電池または外部電池の残り容量が不足してきました。 電池を交換する必要があります。または AC アダプターでお使いください。
⚠取扱いできないファイルです	R-26 では取り扱うことができないファイル形式のファイルです。
⚠すでに存在するファイルです	同じ名前のファイルもしくはフォルダーがあります。 別の名前でファイルやフォルダーを作成してください。
⚠ファイルが保護されています	ファイルが保護されています。ファイル保護をオフにしてから操作してください。
⚠ファイル名が長すぎます	名前が長すぎます。ファイル名を短くしてください。
⚠ファイルシステムエラー	SD カードの状態に問題があります。 R-26 で SD カードをフォーマットしてください。
⚠フォーマットされていません	SD カードがフォーマットされていません。 R-26 で SD カードをフォーマットしてください。
⚠カードの容量が足りません	SD カードの空き容量が不足しています。 ファイルをパソコンにコピーしてバックアップしてから、ファイルを削除、またはカードをフォーマットして、カードの容量を確保してください。
⚠変更できないファイル名です	ファイル名に 2 バイト文字（日本語など）が使われている場合、ファイル名は変更できません。
⚠ファイルサイズが大きすぎます	ファイルのデータ容量が大きすぎます。
⚠書き込みが間に合いません	SD カードへの書き込みが間に合いませんでした。 R-26 で動作確認された SD カードをお使いください。 また、ファイルの書き込みや削除を繰り返すことによって、SD カード内のファイルの並びが不規則になり処理能力が落ちたりすることがあります。この場合は、SD カードをフォーマットしなおしてお使いください。
⚠カードがロックされています	SD カードが Lock されています。SD カードを取り出して Lock を解除してからお使いください。
⚠SD カードエラー	SD カードのアクセスで異常が発生しました。 SD カードが壊れている可能性があります。
⚠ルートフォルダがいっぱいです	ルート・フォルダーがいっぱいです。ファイルを消去するか移動してください。
⚠フォルダーが空ではありません	フォルダーの中にファイルが存在します。フォルダーの中のファイルを削除してから実行してください。
⚠SD カードを入れてください	SD カードがセットされていません。 SD カードを R-26 にセットしてください。

メッセージ	症状
ホールド中です	［HOLD］スイッチが ON になっているため、操作できません。操作を行う場合は、［HOLD］スイッチをオフにしてください。
録音中です	操作したい場合は、録音を中止してください。
再生中です	操作したい場合は、再生を中止してください。

トラブルシューティング

トラブルを解決するためのヒントが書かれています。
また、ホームページでは最新情報が公開されています。あわせてご覧ください。
（http://www.roland.co.jp/support）
それでも解決しない場合には、巻末に記載の『お問い合わせの窓口』へお問い合わせください。

録音ができない

症状	原因	ページ
録音したマイクの音が L チャンネル（左）側からしか聞こえない	お使いになったマイクがモノラル対応の場合は、L チャンネル（左）側のみに録音されます。 外部マイクを使用する場合には、マイクがステレオかモノラルかを確認してください。 モノラル対応のマイクで両側のチャンネルに録音するには、「プラグイン」画面で外部マイクの種類を「モノラル」に設定してください。	P.41
録音が開始できない	SD カードの残容量が 16KB 以下になっていると録音できません。録音待機状態にもなりません。	–
録音を開始した時点と違う部分から録音されている	プリレコーディングがオンになっていると［●］ボタンを押す 2 秒前にさかのぼって、録音が開始されます。	P.34
	自動録音開始機能がオンになっていると一定のレベル以上の入力を検知すると自動的に録音が開始されます。	P.35
録音した音が歪む	センスやインプット・レベルが大きすぎると音が歪んでしまいます。適切な入力レベルになるように設定してください。	P.44
録音したプロジェクトが再生できない	録音中に過ってアダプターが抜けてしまったり、SD カードを抜いてしまうと、プロジェクトが壊れ再生ができなくなります。プロジェクトのリペア機能を使って修復することができる場合があります。	P.80
録音ができない	SD カードが正しくセットされていないと録音ができません。 電源をいったん切って、SD カードをセットしなおしてください	P.26
	SD カードがフォーマットされていないと、SD カードが認識されず、ディスプレイに「フォーマットされていません」と表示されます。SD カードをフォーマットしてください。	P.27
	SD カードは R-26 本体でフォーマットしないと正しく動作しません。パソコンでフォーマットすると、フォーマットの種類が違うことがあります。その場合、録音を開始した直後に停止したり正しく録音ができない場合があります。	P.27
	SD カードの書き込み禁止（LOCK）機能がオンになっていると録音できません。書き込み禁止を解除してください。	P.28
	入力レベルが小さすぎると正しく録音できません。入力レベルを正しく設定してください。	P.44
プロジェクトが勝手に分割されてしまう	R-26 は録音中のファイルのサイズが一定以上になったときに自動的にプロジェクトを分割します。最大ファイルサイズで自動分割するファイルのサイズを設定してください。	P.51

症状	原因	ページ
ANALOG IN 端子、PLUG IN 端子に接続した機器の音量が小さい。	抵抗入りの接続ケーブルを使用していませんか？ 抵抗の入っていない接続ケーブルをご使用ください。	P.15
コンデンサー・マイクの音が入らない	ファンタム電源がオンになっていないとコンデンサー・マイクの音は入りません。ファンタム電源をオンにしてください。	P.39
プラグイン・マイクの音が入らない	プラグイン・パワーがオンになっていないとプラグイン・マイクの音は入りません。プラグイン・パワーをオンにしてください。	P.42
録音フォーマットで MP3 が選べない	MP3 の録音は録音モードが 2 チャンネル、サンプルレートが 44.1kHz、48.0kHz のときのみ可能です。	P.33

再生に関するトラブル

症状	原因	ページ
音が出ない	出力ボリュームが小さすぎると音が聴こえないことがあります。 少しずつ出力ボリュームを大きくしてみてください。	P.62
	ヘッドホンやスピーカーなどが正しく接続されているか確認してください。	P.29
再生できない	ファイル名の付け方が正しいか確認してください。「.」（ピリオド）で始まっているファイルは R-26 では扱うことができません。	P.73
	R-26 では、ファイルの拡張子が .MP3、.WAV のファイルのみ再生することができます。	P.67
	ファイルが破損していると再生できません。ファイル修復機能で修復できる可能性があります。	P.80
	オーディオ・インターフェースとして使用している場合、オーディオ・インターフェースで設定しているサンプリング周波数と異なるサンプリング周波数のプロジェクトは再生できません。	P.89
意図しないファイルが再生される	ファイルの再生モードがシャッフル再生（シャッフル）になっている可能性があります。このとき、R-26 は次に再生するファイルをランダムに選んで再生します。通常再生（順番再生）に設定しなおしてください。	P.62
プレビューモニターから音が出ない	ヘッドホンを使用中は音が出ません。	P.29
	各種設定でプレビューモニターがオフになっていませんか？ プレビューモニターをオンにしてください。	P.97
	オーディオー・インターフェース・モードでは入力デバイスが内蔵マイクのときは音が出ません。	P.92

その他のトラブル

症状	原因	ページ
電源が入らない	AC アダプターが正しく接続されているか確認してください。電池を使用している場合は、電池の向きが正しいか、浮きがないかなどを確認してください。また、電池の残容量がない場合がありますので、新しい電池を用意してください。	P.20
	AC アダプターや電池の状態に問題がないのに R-26 の電源が入らない場合は、故障している可能性があります。ローランドお客様相談センターへお問い合わせください。	–
パソコンと接続しても認識されない	R-26 に SD カードがセットされていないとパソコンに正しく認識されません。マイコンピューターやパソコンのデスクトップ上にアイコンなどが表示されていないときは、SD カードのセット状態を確認してください。	P.26
ディスプレイが暗くなる	点灯時間の設定によっては操作をしていないときにディスプレイが暗くなります。	P.97
勝手に電源が切れてしまう	オート・オフの設定によっては、一定時間操作をしていないと自動的に電源が切れます。	P.97
	終止電圧（外部）設定が正しく設定されているか確認してください。使用する電池の種類（アルカリ、ニッケル水素）が正しく設定しているか確認してください。	P.20
	電池使用時は、電池の残容量が少なくなると電源が切れます。新しい電池に入れ替えてください。	P.20
設定した内容が元に戻ってしまった	R-26 を初期化すると、「メニュー」画面などで設定した内容がすべて元に戻ります。再度設定してください。	–
	設定後、電池切れや AC アダプターが抜けるなどして、電源スイッチを使わずに電源が切れてしまった場合、変更した設定は元に戻ります。再度設定してください。	P.95
USB ケーブルを使ってパソコンに接続したが認識されない	「メニュー」画面のときや再生、録音中にはパソコンと接続しても認識されません。いったん R-26 とパソコンを接続している USB ケーブルを外し、接続しなおしてください。	P.84
プロジェクトを選択しているときにプロジェクト名の表示が遅い	プロジェクトが壊れていたり、不正なファイルや対応していない形式の MP3、容量が大きいファイルについては、R-26 で演奏が可能かどうかを判断するのに時間がかかるため、ファイル選択時の表示が遅くなります。	P.67
ヘッドホンでモニターしているのにハウリングが起こる	オープンエアー・タイプのヘッドホンを使用して録音状況をモニターしているときに、R-26 に近づくとヘッドホンから漏れる音を拾ってハウリングを起こすことがあります。R-26 の内蔵マイクは繊細な音も集音してしまいますので、内蔵マイクにあまり近づきすぎないようにしてください。	P.29

症状	原因	ページ
内蔵時計がリセットされる	AC アダプターが接続されていたり電池がセットされている場合、内蔵時計はそこから電力を供給されて動作します。電池および AC アダプターが抜かれている状態が数日間続くと、内蔵時計の設定は元に戻ります（初期状態)。この初期状態で電源を ON にすると「日付／時間を設定してください」のメッセージが表示されます。「日付／時間を設定してください」が表示されたら、再度、日付と時刻を設定してください。	P.25
プロジェクトの分割／結合ができない	SD カードに該当プロジェクトの 2 倍の空き容量が必要です。また、サイズが 2GB を超えるプロジェクトの結合はできません。	P.74,P.75
タッチパネルの操作が思うようにできない	パネル調整をしてください。	P.98
AC アダプター使用時に「バッテリーが低下しています」のメッセージが出る	「終止電圧（外部）アダプター」の設定が「アダプター」に設定されているか確認してください。	P.23
オーディオ・インターフェースに関するトラブル	付属 SD Card 収録のドライバーの README を参照してください。	–

主な仕様

Roland R-26：ポータブル・レコーダー

レコーダー部

<table>
<tr><td>トラック数</td><td colspan="4">6（3 ステレオ）</td></tr>
<tr><td>信号処理</td><td colspan="4">AD/DA 変換：24 ビット
96.0、88.2、48.0、44.1（kHz）</td></tr>
<tr><td rowspan="12">データ・タイプ</td><td rowspan="7">録音</td><td rowspan="2">WAVE/BWF</td><td>サンプリング周波数</td><td>96.0、88.2、48.0、44.1（kHz）</td></tr>
<tr><td>ビット数</td><td>24 ビット、16 ビット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">MP3（MPEG-1 Audio Layer 3）</td><td>サンプリング周波数</td><td>48.0kHz、44.1kHz</td></tr>
<tr><td>ビット・レート</td><td>320、128、160（kbps）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">WAVE/BWF + MP3</td><td>サンプリング周波数</td><td>48.0、44.1（kHz）</td></tr>
<tr><td>ビット数</td><td>16 ビット固定</td></tr>
<tr><td>ビット・レート</td><td>128kbps 固定</td></tr>
<tr><td rowspan="4">再生</td><td rowspan="2">WAVE/BWF</td><td>サンプリング周波数</td><td>96.0、88.2、48.0、44.1（kHz）</td></tr>
<tr><td>ビット数</td><td>24 ビット、16 ビット</td></tr>
<tr><td rowspan="2">MP3（MPEG-1 Audio Layer 3）</td><td>サンプリング周波数</td><td>48.0、44.1（kHz）</td></tr>
<tr><td>ビット・レート</td><td>32 ～ 320kbps または VBR（Variable Bit Rate）</td></tr>
<tr><td>記憶メディア</td><td colspan="4">SD カード（SDHC 規格対応）</td></tr>
</table>

録音時間（単位：時間）

フォーマット		カード容量				
		2GB	4GB	8GB	16GB	32GB
WAVE/BWF	16bit, 44.1kHz　ステレオ	3.0	6.1	12.2	24.5	48.9
	24bit, 96.0kHz　ステレオ	0.9	1.9	3.7	7.5	15.0
	16bit, 44.1kHz　4 チャンネル	1.5	3.1	6.1	12.2	24.5
	24bit, 96.0kHz　4 チャンネル	0.5	0.9	1.9	3.7	7.5
	16bit, 44.1kHz　6 チャンネル	1.0	2.0	4.1	8.2	16.3
	24bit, 96.0kHz　6 チャンネル	0.3	0.6	1.2	2.5	5.0
MP3	128kbps	33	67	134	269	539
	320kbps	13	27	53	107	215
WAVE/BWF+MP3	16bit+128kbps　44.1kHz	2.8	5.6	11.2	22.4	44.9
	16bit+128kbps　48.0kHz	2.5	5.2	10.4	20.7	41.5

※ 録音時間は目安です。ずれが生じる場合があります。

※ 録音されたファイルが複数ある場合、合計の録音時間はこれより少なくなります。

入出力

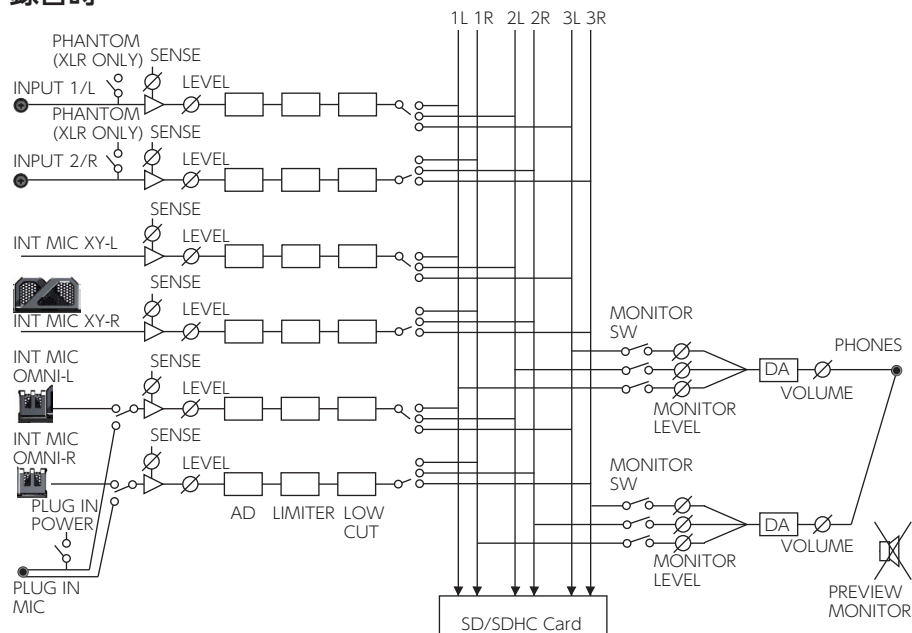
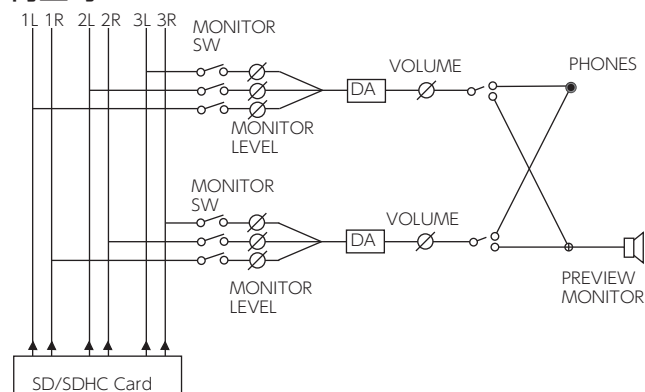
項目			
オーディオ入力	**ステレオ内蔵マイク**	無指向性（OMNI）マイク	
		指向性（XY）マイク	
	ANALOG IN 1/L、IN 2/R 端子 (XLR/TRS コンボ・タイプ)	XLR タイプ (ファンタム電源対応)	
		TRS 標準タイプ (バランス／アンバランス)	
	PLUG IN MIC 端子	ステレオ・ミニ・タイプ	
オーディオ出力	ヘッドホン端子（ステレオ・ミニ・タイプ）		
規定入力レベル（可変） ※ センス設定で選択。入力レベルつまみ中央位置にて。 ※ 0dBu=0.775Vrms	**ANALOG IN 1/L、IN 2/R 端子**	+4、-2、-8、-14、-20、-26、-32、-38、-44、-50、-56、-62（dBu）	
	PLUG IN MIC 端子	LOW	-7.5dBu
		MID	-21dBu
		HIGH	-26dBu
入力インピーダンス	**ANALOG IN 1/L、IN 2/R 端子**	5kΩ 以上	
	PLUG IN MIC 端子	MID ／ HIGH	3kΩ 以上
		LOW	2kΩ 以上
最大許容入力レベル	**ANALOG IN 1/L、IN 2/R 端子**	+24dBu (センス設定 +4dBu)	
	PLUG IN MIC 端子	+4dBu (センス設定 LOW)	
出力レベル	35mW + 35mW（16Ω 負荷時）		
推奨負荷インピーダンス	16Ω 以上		
周波数特性	20Hz 〜 40kHz		
ファンタム電源	48V±4V　2 チャンネル合計で 10mA 以下		
USB インターフェース	ミニ B タイプ端子 USB マス・ストレージ・デバイス・クラス対応 USB オーディオ（Hi-Speed USB）		

その他

項目	内容
ディスプレイ	160x160 ドット・グラフィック・ディスプレイ（タッチ・パネル）
電源	AC アダプター (PSB-1U)、アルカリ電池（単 3 形）×4、充電式ニッケル水素電池（単 3 形）×4
消費電流	500mA
外形寸法	82.0（幅）×180.1（奥行き）×41.1（高さ）mm
質量	0.37kg（電池を除く）
付属品	取扱説明書、SD カード、AC アダプター、Cakewalk SONAR LE DVD-ROM、USB ケーブル (ミニ B タイプ)、ウインドスクリーン、ローランドユーザー登録カード、保証書
別売品	カバー・ウインドスクリーン・セット（OP-R26CW）、バイノーラル・マイクロホン・イヤホン（CS-10EM）、ワンポイント・ステレオ・マイク（CS-15S）、モニター・ヘッドホン（RH-300）、マイク・スタンド・アダプター（OP-MSA1）、マイク・スタンド（ST-100MB）

製品の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

R-26 ブロック・ダイヤグラム

録音時

再生時

索引

A
A-B SPEED タブ . . . . . . **17**、**66**、**67**
AB リピート **66**
AC アダプター **22**
ANALOG IN 1/L 端子 . . . . . . **15**、**38**
ANALOG IN 2/R 端子 . . . . . . **15**、**38**

B
BWF フォーマット **36**

D
DC IN 端子 **14**

I
INFO タブ **17**
［INPUT 1］つまみ . . . . . . **13**、**45**、**48**
［INPUT 2］つまみ . . . . . . **13**、**45**、**48**

M
MARK タブ . . . . . . **17**、**50**、**65**
［MENU］ボタン **13**
MON タブ **17**
MP3 作成 **80**
MS マイク **40**

N
［NEXT］ボタン **13**

P
PEAK インジケーター **13**
PHONES 端子 **14**
［PLAY/PAUSE］ボタン **13**
PLUG IN MIC 端子 **15**
［POWER HOLD］スイッチ . . . . . . **14**、**24**
［PREV］ボタン **13**

R
［REC］ボタン . . . . . . **13**、**48**

S
SD カード . . . . . . **26**、**98**
SD カード・スロット **14**
［SENS］ボタン . . . . . . **13**、**42**、**44**、**45**
［STOP］ボタン . . . . . . **13**、**49**

U
USB **83**
USB 端子 **14**
USB ドライバー **90**

V
［VOLUME］ダイヤル . . . . . . **14**、**62**

お
オーディオ・インターフェース **89**
オート・オフ . . . . . . **24**、**97**、**104**

か
外部電源 **23**
外部入力タイプ . . . . . . **38**、**96**

く
繰り返し再生 . . . . . . **63**、**96**

け
言語設定 **98**

こ
コピー . . . . . . **69**、**70**
コントラスト **97**

さ
再生する速度を変える **67**
再生モード . . . . . . **62**、**63**、**96**
三脚取り付けネジ穴 **15**
サンプリング周波数 . . . . . . **33**、**90**、**95**、**98**

し
指向性（XY）内蔵マイク **13**
自動分割 . . . . . . **51**、**95**
自動マーキング . . . . . . **50**、**95**
自動録音開始 . . . . . . **35**、**95**
終止電圧 . . . . . . **23**、**97**
初期化 **99**

す
ストラップ取り付け軸 **14**

せ
接地端子（アース端子） **14**

た
ダイレクト・モニター **93**
タッチ・パネル・ディスプレイ **13**

て
低音域をカットする **37**
電池 **20**
電池ケース . . . . . . **15**、**20**
電池の種類 . . . . . . **21**、**97**

索引

な

内蔵マイクのモード **42**

に

入力センス . . . . **44**、**46**、**47**
入力デバイス . . . . **92**、**98**
入力レベル . . . . **45**、**47**

は

バックライト **97**

ひ

日付と時刻 . . . . **25**、**98**

ふ

ファイルタイプ. **36**、**96**
ファインダー **68**
ファンタム電源. **39**、**96**
フォルダーを作成する. **81**
不要部分を削除する **75**
プラグインパワー . . . . **42**、**97**
プラグイン・マイク **41**
プリレコーディング . . . . **34**、**95**
プレビュー・モニター. . . . . **15**、**97**
プロジェクトのファイル構成 **86**
プロジェクト名の付け方 **35**
プロジェクトを結合する **75**
プロジェクトを修復する **80**
プロジェクトを分割する . . . . **51**、**74**

ま

マーク . . . . **50**、**65**
マス・ストレージ **84**

む

無指向性（OMNI）内蔵マイク. **13**

め

名前変更. . . . . **69**、**72**
メニュー画面 **18**
メモ録音. . . . . **69**、**77**

も

モニターを設定する **64**

り

リミッター . . . . **36**、**96**

る

ループ・バック機能 **94**

ろ

ローカット・フィルター. . . . . **37**、**96**
録音ソース . . . . **31**、**45**、**95**
録音フォーマット . . . . **34**、**95**
録音モード . . . . **31**、**45**
録音モニター **97**

お問い合わせの窓口

● 製品に関するお問い合わせ先

ローランドお客様相談センター　**050-3101-2555**

電話受付時間：　月曜日〜土曜日　10:00〜17:30（年末年始を除く）

※IP電話からおかけになって繋がらない場合には、お手数ですが、電話番号の前に“0000”（ゼロ4回）をつけてNTTの一般回線からおかけいただくか、携帯電話をご利用ください。

※上記窓口の名称、電話番号等は、予告なく変更することがありますのでご了承ください。

● 最新サポート情報

製品情報、イベント／キャンペーン情報、サポートに関する情報など

ローランド・ホームページ　**http://www.roland.co.jp/**

'07. 10. 01 現在（Roland）